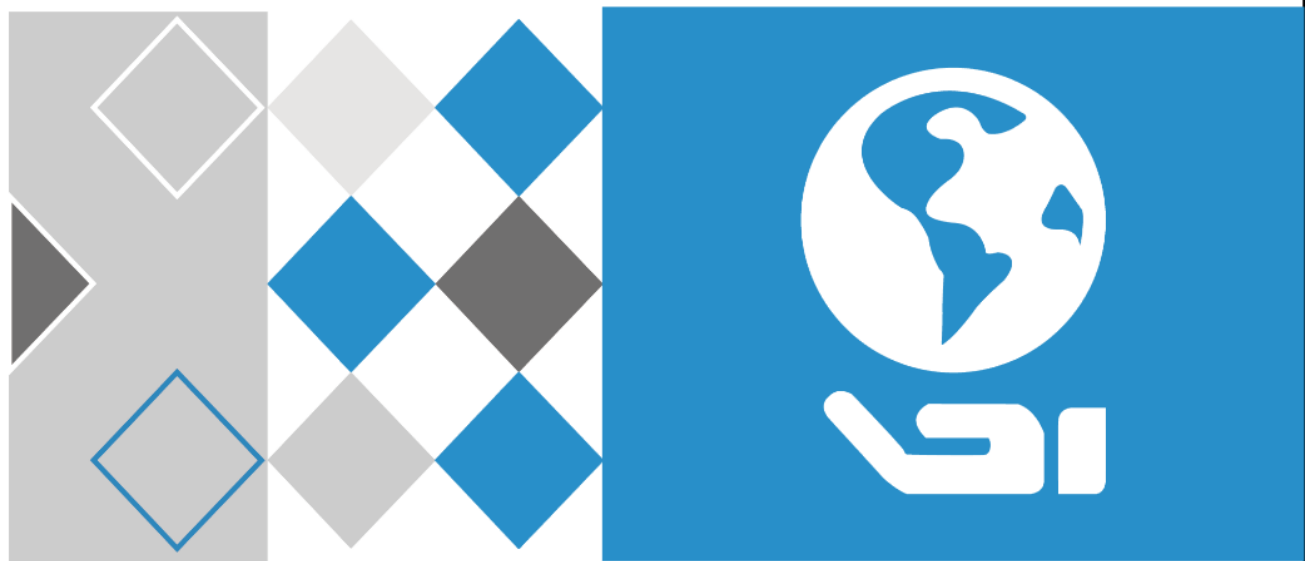


HiLook



デジタルビデオレコーダー

ユーザーマニュアル

法的情報

この文書について

- 本ドキュメントには、製品の使用および管理に関する指示が含まれています。以下に示す写真、図表、画像およびその他すべての情報は、説明および解説のみを目的としています。
- 本ドキュメントに記載されている情報は、ファームウェアの更新その他の理由により、予告なく変更される場合があります。最新版はHikvisionウェブサイト（<https://www.hikvision.com>）でご確認ください。別段の合意がない限り、杭州海康威視数字技術有限公司またはその関連会社（以下「Hikvision」といいます）は、明示的または黙示的を問わず、一切の保証を行いません。
- 本製品をサポートする訓練を受けた専門家の指導と支援のもとで、本ドキュメントをご利用ください。

本製品について

- 本製品は、購入された国または地域でのみアフターサービスサポートを受けることができます。
- お選びいただいた製品が映像製品の場合は、以下のQRコードをスキャンして「映像製品の使用に関する取り組み」を入手し、よくお読みください。

知的財産権に関する認識

- Hikvision は、本書に記載された製品に組み込まれた技術に関連する著作権および/または特許を所有しており、これには第三者から取得したライセンスが含まれる場合があります。
- 本文書のテキスト、画像、グラフィックなど、その一部はすべて Hikvision に帰属します。書面による許可なく、本文書のいかなる部分も、その全部または一部を、いかなる手段によっても抜粋、複製、翻訳、または改変することはできません。
- HiLook およびその他の Hikvision の商標およびロゴは、さまざまな法域における Hikvision の所有物です。
- 記載されているその他の商標およびロゴは、それぞれの所有者に帰属します。
-  HDMI および HDMI High-Definition Multimedia Interface、ならびに HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

法的免責事項

- 適用される法律で認められる最大限の範囲において、本書および記載されている製品（そのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアを含む）は、「現状有姿のまま」かつ「すべての欠陥およびエラーを含む」状態で提供されます。HIKVISION は、商品性、満足 of いく品質、特定目的への適合性を含むがこれらに限定されない、明示または

黙示の保証を行いません。本製品の使用はお客様の自己責任によるものとします。いかなる場合においても、HIKVISIONは、特別損害、結果的損害、付随的損害、間接損害（事業利益の損失、事業中断、データ損失、システムの破損、または文書の損失を含むがこれらに限定されない損害について、契約違反、不法行為（過失を含む）、製品責任その他のいかなる法的根拠に基づくものであっても、本製品の使用に関連して生じた場合、HIKVISIONがそのような損害または損失の可能性について事前に通知を受けていた場合であっても、一切の責任を負いません。

- お客様は、インターネットの性質上、固有のセキュリティリスクが存在することを認識し、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス感染、その他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシー漏洩、その他の損害について、HIKVISIONは一切の責任を負わないものとします。ただし、必要に応じてHIKVISIONは適時に技術サポートを提供します。ウイルス感染、その他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシー漏洩その他の損害について一切の責任を負いません。ただし、必要に応じてタイムリーな技術サポートを提供します。
- お客様は、適用される全ての法令を遵守して本製品を使用することに同意し、お客様の使用が適用法令に準拠していることを確認する責任はお客様のみにあります。特に、本製品の使用が第三者の権利（パブリシティ権、知的財産権、データ保護およびその他のプライバシー権を含むがこれらに限定されない）を侵害しない方法で行う責任を負います。お客様は、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、核爆発物または安全でない核燃料サイクルに関連する文脈における活動、または人権侵害を支援する活動。
- 本文書と適用される法律との間に矛盾が生じた場合、後者が優先する。

©杭州海康威視デジタル技術有限公司。無断複写・転載を禁じます。

規制情報

FCC情報

コンプライアンスの責任者が明示的に承認していない変更または改造は、ユーザーによる本機器の操作権限を無効にする可能性があることにご留意ください。

FCC適合性：本機器は、FCC規則第15部の規定に基づく試験を実施し、その制限に適合していることが確認されています。これらの制限は、住宅環境における有害な干渉から合理的な保護を提供するために設計されています。本機器は、無線周波エネルギーを発生、使用、および放射する可能性があり、指示に従って設置および使用されない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置環境において干渉が発生しない保証はありません。本機器がラジオまたはテレビ受信に有害な干渉を引き起こす場合（機器の電源をオフ/オンすることで確認可能）、ユーザーは以下の対策のいずれかまたは複数を試み、干渉の解消に努めることが推奨されます：

- 受信アンテナの方向や設置場所を変更する。
- 機器と受信機の間隔を広げる。
- 受信機が接続されている回路とは異なる回路のコンセントに接続する。
- 販売店または経験豊富なラジオ / テレビ技術者に相談する。

FCC条件

本装置はFCC規則第15部に準拠しています。動作は以下の2条件に従います：

- 本装置は有害な干渉を引き起こしてはならない。
- この装置は、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信したあらゆる干渉を受け入れなければなりません。

EU適合宣言



本製品および付属品（該当する場合）は「CE」マークを取得しており、EMC指令2014/30/EU、LVD指令2014/35/EU、RoHS指令2011/65/EUに規定される欧州統一規格に準拠しています。



2012/19/EU（WEEE指令）：このマークが付いた製品は、欧州連合において一般廃棄物として廃棄できません。適切なリサイクルのため、同等の新品機器購入時に販売店へ返却するか、指定回収拠点で処分してください。詳細は<http://www.recyclethis.info>を参照。



規則 (EU) 2023/1542（電池規制）：本製品には電池が含まれており、規則 (EU) 2023/1542 に準拠しています。欧州連合域内では、電池を一般廃棄物として廃棄することはできません。具体的な電池情報については製品説明書をご参照ください。電池にはこの記号が刻印されており、カドミウム（Cd）または鉛（Pb）を示す文

字が含まれる場合があります。適切なリサイクルのため、電池は販売店または指定回収拠点へ返却してください。詳細は以下を参照: **<http://www.recyclethis.info>**。

適用モデル

本マニュアルは下記のモデルに適用されます。

シリーズ	モデル
DVR-100G-M1/T	DVR-104G-M1/T
	DVR-108G-M1/T
DVR-200G-M1/T	DVR-204G-M1/T
	DVR-208G-M1/T
DVR-200Q-M1/T	DVR-204Q-M1
	DVR-208Q-M1
	DVR-216Q-M1
DVR-200U-M1/T	DVR-204U-M1/T
	DVR-208U-M1/T
	DVR-216U-M1/T
DVR-200Q-M1 (E)	DVR-216Q-M1 (E)
DVR-200Q-M2 (E)	DVR-216Q-M2 (E)
DVR-200U-M1 (E)	DVR-208U-M1 (E)

記号の規約

本書で使用される記号は、以下の通り定義されます。

記号	説明
 危険	回避しなければ死亡または重傷を負う危険な状況があることを示す。
 注意	回避しなければ、機器の損傷、データの損失、性能の低下、または予期しない結果をもたらす可能性のある潜在的な危険な状況を示します。
 注記	本文の重要な点を強調または補足する追加情報を提供します。

安全上の指示

- すべてのパスワードおよびその他のセキュリティ設定の適切な構成は、設置者および / またはエンドユーザーの責任です。
- 製品の使用にあたっては、国および地域の電気安全規制を厳守してください。
- プラグを電源コンセントにしっかりと差し込んでください。1つの電源アダプターに複数の機器を接続しないでください。付属品や周辺機器の接続・取り外しを行う前に、機器の電源を切ってください。
- 感電の危険！ 保守作業前には全ての電源を切断してください。
- 本機器は接地された電源コンセントに接続してください。
- コンセントは装置の近くに設置し、容易にアクセスできる状態にしておくこと。
- ⚡（危険な通電状態を示す）の表示がある機器の場合、端子に接続される外部配線は、指示を受けた者による設置が必要です。
- 本装置を不安定な場所に設置しないでください。装置が落下し、重大な人身事故や死亡事故を引き起こす恐れがあります。
- 入力電圧は、IEC62368 に準拠した SELV（安全超低電圧）および LPS（限定電源）を満たす必要があります。
- 高接触電流注意！ 電源接続前に必ずアース接続を行ってください。
- 本装置から煙、異臭、異音が発生した場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いて、サービスセンターにご連絡ください。
- 本装置はUPSと併用し、可能な限りメーカー推奨のHDDを使用してください。
- 本機器は、子供がいる可能性のある場所での使用には適していません。
- 注意：誤ったタイプの電池と交換すると爆発の危険があります。
- 電池を飲み込まないでください。化学火傷の危険性があります！
- 本製品にはコイン型電池が含まれています。コイン型電池を飲み込むと、わずか2時間で深刻な内部やけどを引き起こし、死に至る可能性があります。
- 誤った種類の電池で不適切に交換すると、安全装置が機能しなくなる可能性があります（例：一部のリチウム電池タイプの場合）。
- 電池を火中や高温のオーブンに廃棄したり、機械的に押しつぶしたり切断したりしないでください。爆発の原因となる可能性があります。
- 電池を極端に高温の環境に放置しないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏出を引き起こす可能性があります。
- 電池を極端に低い気圧にさらさないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏出を引き起こす可能性があります。
- 使用済み電池は指示に従って廃棄してください。
- ファンブレードやモーターに身体の一部が接触しないようにしてください。メンテナンス中は電源を切断してください。
- 身体の一部をモーターから遠ざけてください。整備中は電源を切ってください。
- 純正モデルと同じ電源、または同じ電圧および電流のLPS電源のみを使用してください。

- データ漏洩を防ぐため、SSDデバイス廃棄前にSecure Erase機能でデータを消去してください。

予防および注意事項

本装置の接続・操作前に、以下の注意事項をご確認ください：

- 本装置は屋内専用です。換気良好でほこりのない、液体のない環境に設置してください。
- レコーダーはラックや棚に確実に固定してください。落下による強い衝撃や振動は、レコーダー内部の精密電子部品を損傷する恐れがあります。
- 本装置は水滴や水しぶきにさらさないでください。また、花瓶などの液体入りの容器を装置の上に置かないでください。
- 点灯したろうそくなどの裸火を本装置の上に置かないでください。
- 換気口を新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどの物品で覆い、通気を妨げてはいけません。ベッド、ソファ、ラグ、その他の類似した表面に装置を置くことで、換気口を絶対に塞がないでください。
- 特定のモデルについては、AC 電源に接続するための端子の正しい配線を確認してください。
- 特定のモデルでは、必要に応じてIT配電システムへの接続用に設計・改造されています。
-  はバッテリーホルダー本体を示し、はバッテリーホルダー内部の電池セルの配置を示します。
- + は、直流を使用または発生する機器のプラス端子を示します。- は、直流を使用または発生する機器のマイナス端子を示します。
- 本装置が電源オフ状態または長期間放置された場合、コイン型/ボタン型電池の電力が消耗する可能性があります。
- コイン型/ボタン型電池の電力が枯渇すると、システム時刻が不正確になります。電池の交換については、アフターサービスにご連絡ください。
- 十分な換気のため、機器の周囲には最低200mm（7.87インチ）の距離を保ってください。
- 特定のモデルでは、AC 電源に接続する端子の正しい配線を確認してください。
- 鋭利なエッジや角には触れないでください。
- °デバイスの動作温度が 45 °C（113 °F）を超えた場合、または S.M.A.R.T. における HDD 温度が規定値を超えた場合は、デバイスを涼しい環境で動作させるか、HDD を交換して S.M.A.R.T. における HDD 温度を規定値以下にしてください。
- 山頂、鉄塔、森林などの特殊な条件下では、装置の吸気口にサージプロテクタを設置してください。
- 電源を切った後も電気が残っている可能性があるため、むき出しの部品（インレットの金属接点など）には触れないでください。また、少なくとも 5 分間は待ってください。
- 本装置のUSBポートは、マウス、キーボード、USBフラッシュドライブ、Wi-Fi Dongle 接続専用です。接続機器の電流は0.1A以下であること。
- 本装置のシリアルポートはデバッグ専用です。

- 本装置の電源出力ポートが限定電源に準拠していない場合、このポートから給電される接続機器には防火エンクロージャーを装備してください。
- 本装置のパッケージに電源アダプタが同梱されている場合は、同梱のアダプタのみを使用してください。
-  または  のステッカーが貼られている装置については、以下の注意事項に注意してください。注意： 部品は高温です。触れないでください。部品を取り扱う際に指を火傷する恐れがあります。電源を切ってから 30 分待ってから部品を取り扱ってください。
 - 壁や天井に設置する場合は、本マニュアルの指示に従って設置してください。
 - 怪我を防ぐため、本装置は設置説明書に従い設置面に確実に固定してください。
-
- 高温環境下（40° C（104° F）～ 55° C（131° F））では、一部の電源アダプターの出力が低下する場合があります。配線、設置、分解作業を行う前に、必ず電源が切断されていることを確認してください。
- 本装置を自身で配線する場合は、装置に表示されている電氣的パラメータに基づき、対応する電線を選択して給電してください。標準的なワイヤーストリッパーで対応する位置の被覆を剥がします。重大な結果を避けるため、被覆剥離後の電線長は適切に保ち、導体が露出しないようにしてください。
- 装置から煙・異臭・異音が発生した場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いてサービスセンターにご連絡ください。

目次

第1章 起動	1
1.1 デバイスのアクティベート	1
1.2 ログイン	2
1.2.1 ロック解除パターンによるログイン	2
1.2.2 パスワードによるログイン	3
第2章 ライブビュー	4
2.1 GUI 概要	4
2.1.1 ウィンドウ分割のカスタマイズ	5
2.2 PTZ コントロール	5
2.2.1 PTZ パラメータの設定	5
2.2.2 PTZコントロールパネルの概要	6
2.2.3 プリセットのカスタマイズ	6
2.2.4 パトロールのカスタマイズ	7
2.2.5 パターンのカスタマイズ	7
第3章 再生	8
3.1 GUI 概要	8
3.2 通常再生	8
3.3 イベント再生	10
3.4 スライス再生	11
3.5 クリップのバックアップ	12
第4章 ファイル検索	14
4.1 人物顔写真による検索	14
4.2 クイックバックアップ	15
第5章 設定（簡易モード）	16
5.1 システム設定	16
5.1.1 基本	16

5.1.2 ユーザー	16
5.1.3 例外	18
5.2 ネットワーク設定	18
5.2.1 概要	18
5.2.2 HiLookVision	19
5.2.3 電子メール	19
5.3 カメラ	21
5.3.1 ネットワークカメラ	21
5.3.2 OSD設定	23
5.3.3 動体検知	23
5.4 アラーム連動アクションの設定	24
5.5 警戒スケジュール設定	24
5.6 録画管理	25
5.6.1 ストレージデバイス	25
5.6.2 録画スケジュールの設定	26
5.6.3 録画パラメータの設定	27
第6章 設定（エキスパートモード）	29
6.1 システム設定	29
6.1.1 基本	29
6.1.2 ライブビュー	30
6.1.3 ユーザー	31
6.2 ネットワーク設定	32
6.2.1 概要	32
6.2.2 プラットフォームへのアクセス	37
6.2.3 電子メール	39
6.3 カメラ管理	39
6.3.1 信号入力の設定	39
6.3.2 ネットワークカメラ	40
6.3.3 表示設定	44

6.3.4 プライバシーマスク	46
6.4 イベント設定	46
6.4.1 通常イベント	46
6.4.2 境界保護	50
6.4.3 顔認識	54
6.4.4 警戒スケジュール設定	56
6.4.5 警報連動動作の設定	56
6.5 インテリジェント検索	58
6.5.1 AcuSearch	58
6.6 録画管理	59
6.6.1 録画スケジュールの設定	59
6.6.2 記録パラメータの設定	61
6.6.3 ストレージデバイス	62
6.6.4 保存モードの設定	63
6.6.5 詳細設定	64
6.7 顔写真ライブラリ管理	65
6.7.1 顔写真ライブラリの追加	65
6.7.2 ライブラリへの顔写真のアップロード	65
第7章 メンテナンス	67
7.1 デフォルト設定への復元	67
7.2 検索ログ	67
7.3 システムサービス	67
7.4 ブザースイッチ	68
7.5 デバイスマンテナンス	69
7.5.1 スケジュール再起動	69
7.5.2 デバイスステータス	69
7.5.3 時刻同期診断	69
7.6 アップグレード	70
7.6.1 ローカルアップグレード	70

7.6.2 オンラインアップグレード	70
第8章 アラーム	72
8.1 イベントヒントの設定	72
8.2 アラームセンターでのアラーム表示	72
第9章 Web操作	73
9.1 はじめに	73
9.2 ログイン	73
9.3 ライブビュー	74
9.4 再生	74
9.5 設定	74
9.6 ログ	74
第10章 付録.....	75
10.1 用語集	75

第1章 起動

1.1 デバイスの起動

初回アクセス時には、管理者パスワードを設定してビデオレコーダーをアクティベートする必要があります。アクティベート前は一切の操作が許可されません。ビデオレコーダーはウェブブラウザ、SADP、またはクライアントソフトウェア経由でもアクティベート可能です。

開始前に

- デバイスの電源を入れてください。

初回アクセス時、インターフェース上で1分間マウスを動かさない場合、解像度は自動的に1280*720/60Hz（720P）に設定されます。

手順

1. 言語を選択します。
2. 「適用」をクリックします。
3. 「パスワード」と「パスワード確認」に同じパスワードを入力します。

警告

強固なパスワードの使用を推奨します-製品のセキュリティ強化のため、以下のルールに従いご自身で強固なパスワードを作成されることを強く推奨します：

8～16文字。パスワードに以下の文字を含めないでください：ユーザー名、123、admin、4桁以上の連続した昇順/降順の数字、または4文字以上の連続した同一文字。以下の種類の文字を少なくとも2種類以上含める必要があります：数字、大文字、小文字、特殊文字。危険なパスワードは使用できません。

特に高セキュリティシステムでは、パスワードを定期的のリセットすることを推奨します。月次または週次でのリセットにより、製品をより効果的に保護できます。

-
4. オプション：パスワードヒントの設定。

注意

パスワードを忘れた場合、ヒントが思い出しの手助けとなります。パスワードヒントの設定をお勧めします。

-
5. オプション：ロック解除パターンを設定します。
 - 1) ロック解除パターンを有効にする。

- 2) マウスを使用して画面上の9つの点の間でパターンを描画します。パターンが完成したらマウスを離してください。

 注意

パターンは最低4つの点で構成する必要があります。各点は1回のみ接続可能です。

- 3) 同じパターンを再度描画して確認します。2つのパターンが一致した場合、設定は正常に完了します。
6. 「有効化」をクリックします。
7. オプション: ウィザード内の全パラメータを自動設定するには「自動」をクリックします。

次の手順

ウィザードに従って基本パラメータを設定します。

- 基本システムパラメータについて。詳細は「一般」を参照してください。
- 一般的なネットワークパラメータについては、「一般設定」を参照してください。
- ストレージデバイスの設定については、「ストレージデバイス」を参照してください。
- ネットワークカメラの追加については、「ネットワークカメラ」を参照してください。
- プラットフォーム設定については、HiLookVisionを参照してください。
- パスワードを忘れた場合、パスワードリセットメール、HiLookVision、セキュリティ質問の3つの方法でリセットできます。パスワードリセット方法を設定可能です。詳細は「パスワードリセットメールの設定」および「HiLookVision」を参照してください。いずれの方法も設定していない場合、自動ログインウィンドウが表示されます。「はい」をクリックすると、パスワードなしでログインできます。

1.2 ログイン

1.2.1 ロック解除パターンによるログイン

手順

1. マウスの右クリックでメニューを選択するか、ライブビュー上でマウスの左クリックを行います。
2. 事前定義されたパターンを描画してメニュー操作に入ります。

 注記

- パターンを忘れた場合は、「パターンを忘れた」または「ユーザー切替」をクリックし、パスワードでログインしてください。
- 間違ったパターンを5回以上描画した場合、システムは自動的に通常ログインモードに切り替わります。

1.2.2 パスワードによるログイン

ビデオレコーダーがログアウトしている場合は、メニューやその他の 機能を実行する前にログインする必要があります。

手順

1. ユーザー名を選択します。
2. パスワードを入力します。
3. 「ログイン」をクリックします。

注意

- 管理者のパスワードを忘れた場合、「パスワードを忘れた場合」をクリックしてパスワードをリセットできます。
- パスワードを7回間違えて入力すると、現在のユーザーアカウントは60秒間ロックされます。

「自動ログイン」にチェックを入れると、パスワードなしでログインできます。

第2章 ライブビュー

2.1 GUI 概要

- 左上の「**Target Detection**」をクリックし、「」または「」を選択すると、指定したライブターゲット検出結果が表示されます。結果の詳細は「**View More**」をクリックしてください。

注記

- ターゲット検出は特定のモデルでのみ利用可能です。
- ターゲット検出は、HDD がインストールされている場合に有効です。
-  モーション検知、ライン越え検知、侵入検知、顔キャプチャに有効です。

-  をクリックすると自動切り替えの開始/停止が可能です。画面は自動的に次の画面に切り替わります。
- ライブビューウィンドウの分割を選択するには、 /  /  /  /  /  /  /  /  /  /  をクリックしてください。フルスクリーンモードに入るには、 をクリックしてください。
- カメラをダブルクリックするとシングルスクリーンモードで表示されます。再度ダブルクリックするとシングルスクリーンモードを終了します。
- カメラのライブビュー画面を変更するには、その画面から目的の画面へドラッグします。
- 上下スクロールで前/次の画面に切り替えます。
- カメラ上にカーソルを置くとショートカットメニューが表示されます。

表 2-1 ショートカットメニューの説明

ボタン	説明
	直近5分間に録画された動画の再生を開始します。
	デジタルズーム。ズームインの倍率を調整し、目的のエリアを表示できます。
	クリックすると PTZ 制御モードに入ります。
	ライブビューの音声のオン/オフを切り替えます。
	ビデオストリームを切り替えます。

- ライブビュー画面の右上隅には、各カメラの録画状態とアラーム状態を示すアイコンが表示されます。

表 2-2 ライブビューアイコンの説明

アイコン	説明
	アラーム発生中（通常イベントおよびスマートイベント）。
	録画中。

- ショートカットメニューを表示するには、マウスを右クリックしてください。

2.1.1 ウィンドウ分割のカスタマイズ

ウィンドウ分割は、必要に応じてカスタマイズすることもできます。

手順

1. ライブビューページを開きます。
2. [ライブビュー]>[→]>[ウィンドウ分割]>[→ shezhi] を選択し、ウィンドウ分割パネルを開きます。
3. 「編集名」をクリックしてレイアウト名を編集します。
4. オプション：マウスをドラッグして隣接するウィンドウを選択し、「結合」をクリックすると、それらを1つのウィンドウとして結合できます。
5. オプション：結合したウィンドウを選択し、「復元」をクリックして結合を解除します。
6. 「保存」をクリックします。
7. オプション：表示モードをクリックまたはドラッグして表示ウィンドウに適用し、表示モードを設定します。

2.2 PTZ制御

2.2.1 PTZパラメータの設定

PTZカメラを制御する前に、PTZパラメータを設定する必要があります。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの「」をクリックします。
2. 「」をクリックします。
3. PTZカメラのパラメータを設定します。

 注記

すべてのパラメータはPTZカメラと同一である必要があります。

4. [OK]をクリックします。

2.2.2 PTZ コントロールパネルの概要

表 2-3 PTZ パネルの説明

アイコン	説明
	方向ボタン、および自動循環ボタン。
	PTZ 動作速度。
	ズーム -/+。
	フォーカス -/+。
	アイリス -/+。

2.2.3 プリセットのカスタマイズ

イベント発生時に PTZ カメラが向くプリセット位置を設定します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの「」をクリックします。
2. プリセットリストから目的のプリセットを選択します。
3. 方向キーを使用してカメラを必要な位置に移動させます。ズームとフォーカスを任意に調整します。
4. 「」をクリックします。

次の操作

プリセットリストでプリセットをダブルクリックすると呼び出せます。

2.2.4 パトロールのカスタマイズ

パトロールとは、指定された順序で一連のプリセットで構成される経路を指します。複数のプリセットを監視するための動的なライブ画像を提供します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、 ショートカットメニューをクリックします。
2. 「パトロール」をクリックします。
3. 対象のパトロールの「」をクリックします。
4. 「」をクリックします。
5. キーポイント番号、各キーポイントの滞在時間、パトロール速度などのキーポイントパラメータを設定します。キーポイントはプリセットに対応します。プリセット番号は、パトロールを循環する際にPTZが追従する順序を決定します。**滞在時間**は、対応するキーポイントに留まる時間間隔を指します。**速度**は、PTZが1つのキーポイントから次のキーポイントへ移動する速度を定義します。
6. **[OK]**をクリックします。
7. **[保存]**をクリックします。

次の操作

パトロールを選択し、 をクリックして呼び出します。PTZカメラは事前定義されたパトロール経路に沿って移動します。

2.2.5 パターンのカスタマイズ

パターンは移動経路と特定位置での滞留時間を記録します。パターンを呼び出すと、PTZカメラは記録された経路に沿って移動します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの「」をクリックします。
2. **[パターン]**をクリックします。
3. パターンを選択します。
4. 「」をクリックします。
5. 方向ボタンでカメラを必要な位置に移動させます。ズームとフォーカスを任意に調整します。
6.  をクリックします。カメラの移動経路がパターンとして記録されます。

次の操作

パターンを選択し、 をクリックして呼び出します。PTZカメラは事前定義されたパターンに従って移動します。

第3章 再生

3.1 GUI 概要

再生画面へ移動します。

表 3-1 再生インターフェースの説明

ボタン	操作	ボタン	操作
	30秒巻き戻し。		30秒間 早送り
	全画面表示。		再生開始。
	速度を落とす。		スピードアップ。
	速度。		逆再生。

- タイムライン上でカーソルを配置し、タイムラインをドラッグして特定の時間位置に移動します。
- 青色のバーでマークされた期間に動画が含まれます。赤色のバーは、その期間内の動画がイベント動画であることを示します。
- タイムラインを上下にスクロールしてズームアウト/ズームインします。

3.2 通常再生

通常の動画を再生します。

手順

1. 再生画面に移動します。
2. カメラリストからカメラを選択します。
3. カレンダーから再生したい日付を選択します。

注記

カレンダー日付の隅にある青い三角形は、利用可能な動画があることを示します。例： は動画が利用可能であることを意味します。 は動画がないことを意味します。

4. オプション：再生ウィンドウにカーソルを合わせるとコントロールバーが表示されます。

表3-2 ボタン説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	ウィンドウ分割、チャンネルのグループ化、再生。		再生画像を拡大/縮小します。
	オーディオのオン/オフを切り替えます。		タグを追加します。
	ビデオをロック/ロック解除します。		動画をクリップする。
	人を写した動画を表示		車両を含む動画を表示する。
通常の動画をスキップ	/ をクリックすると、再生中に他の動画は非表示になり、人物または車両が含まれる動画のみが表示・再生されます。		ルールフレームとターゲットフレームを表示する。
	画面サイズに応じて画像表示効果を調整します。	スマート検索 ()	/ をクリックした場合、 をクリックして検知エリアを設定すると、そのエリア内の人物/車両情報を素早く検索できます。
	ボタンをクリックすると、ターゲットが画面に表示されます。ターゲットをクリックすると、そのターゲットを含む画像を検索します。画像を		マルチウィンドウ分割再生。

ボタン	説明	ボタン	説明
	クリックすると、その瞬間の前後を含む動画を再生します。  注意 本機能をご利用になる前に、現在のチャンネルでAcuSearchアルゴリズムを有効にする必要があります。		

3.3 イベント再生

イベント再生モードを選択すると、システムは、動き検知、ライン越え検知、侵入検知情報を含むビデオを分析し、マークを付けます。

開始前に

- カメラで**デュアルVCA**が有効になっていることを確認してください。カメラのウェブブラウザインターフェースで設定可能です：→ → **Video/Audio** → → → **Display Info. on Stream**。
- →ビデオレコーダーで「**VCAデータ保存**」が有効になっていることを確認してください。**設定（Configuration）** → **録画（Record）** → 詳細設定（→ **Advanced**）で有効にできます。

手順

1. 再生画面に移動します。
2. 「イベント」をクリックします。
3. カメラを選択します。
4. 再生ウィンドウ上でカーソルを移動し、コントロールバーを表示させます。

表 3-3 ボタン説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	タグを追加します。		再生画像を拡大/縮小します。
	ビデオをクリップ。		ビデオをロック/ロック解除。
	検出エリアを設定する。		オーディオのオン/オフを切り替える。

5. 「」をクリックし、ラインクロス検知、侵入検知、または動体検知の検出エリアを設定します。
6. 「」をクリックして動画を検索します。検知ルールを満たす動画は赤色でマークされます。
7. 「」をクリックして再生戦略を設定します。

通常動画をスキップ

有効にすると、スマート情報を持たない動画は再生されません。

通常動画

通常動画の再生速度を設定します。このオプションは「通常動画を再生しない」がオフの場合にのみ有効です。

スマート/カスタム動画の再生速度

スマート情報を持つ動画の再生速度を設定します。このオプションは「通常動画を再生しない」が有効な場合にのみ有効です。

3.4 スライス再生

動画をスライスに分割して再生します。

手順

1. 再生→ スライス再生 に移動します。
2. カメラリストからカメラを選択します。
3. カレンダー上で再生したい月、日付、時間を選択します。

注記

カレンダーの日付コーナーにある青い三角形は、利用可能な動画があることを示します。例えば、 は動画が利用可能であることを意味します。 は動画がないことを意味します。

取得した動画は1時間単位に分割されて再生されます。

4. オプション：1時間単位のスライスを選択し、「」をクリックすると、1分単位のスライスに分割して再生できます。
5. スライスをクリックすると、右側で動画が再生されます。

表 3-4 スライス再生アイコンの説明

アイコン	名前	説明
	AcuSearch	ボタンをクリックすると、ターゲットが画面に表示されます。ターゲットをクリックすると、そのターゲットを含む画像を検索します。画像をクリックすると、その時点の前後の動画を再生します。
	動画エクスポート	クリックすると動画をエクスポートします。
	VCA情報表示	ルールフレームとターゲットフレームを表示します。  注意 前提条件：チャンネルが追加され、プレビュー可能であること。カメラまたはデバイスでVCA設定が完了していること。
	自己適応解像度を有効にする	画面サイズに応じて画像表示効果を調整します。
	オーディオコントロール	音声のオン/オフと音量調整を行います。

3.5 クリップのバックアップ

再生中に動画をクリップできます。クリップした動画はバックアップデバイス（USBフラ

ッシュドライブなど)にエクスポートできます。

開始前に

ビデオレコーダーにバックアップデバイスを接続してください。

手順

1. 再生を開始します。詳細は「通常再生」を参照してください。
2.  をクリックします。
3. 開始時間と終了時間を設定します。タイムバー上のカーソルを調整して期間を設定することもできます。
4. **[保存]** をクリックします。
5. バックアップ先デバイスとフォルダを選択します。
6. **[保存]** をクリックしてクリップをバックアップデバイスにエクスポートします。

第4章 ファイル検索

手順

1. **検索**に移動します。
2. 検索タイプ（動画、画像、イベントなど）を選択します。
3. 検索条件を設定します。
4. オプション：クイックバックアップをクリックすると、動画をデバイスに素早くエクスポートできます。

注記

クイックバックアップは動画およびイベント検索で利用可能です。

5. **[検索]**をクリックします。
 - 「」をクリックすると動画を再生します。
 - 「」をクリックしてファイルをロックします。ロックされたファイルは上書きされません。
 - ファイルを選択し、「エクスポート」をクリックしてバックアップデバイスにファイルをエクスポートします。

4.1 顔写真による人物検索

提供された顔写真で人物記録を検索できます。

開始前に

顔写真比較機能が有効になっていることを確認してください。

手順

1. 「→ Human」**検索**に移動します。
2. 検索方法を「写真による検索」に設定します。
3. 顔写真をアップロードします。
 - ローカルストレージデバイス（例：USBフラッシュドライブ）から顔写真をアップロードするには、「ローカルからアップロード」をクリックします。
 - 顔写真ライブラリからアップロードをクリックすると、顔写真ライブラリから顔写真をアップロードできます。

注意

- JPGおよびJPEG形式のみ対応しています。
- 各画像のサイズは1MB未満である必要があります。
- 写真の解像度は 80×80 から 1920×1080 の間でなければなりません。

4. 開始時間と終了時間を設定します。
5. **類似度**を設定します。

類似度

類似度値は0から100の範囲です。デバイスは、検出された 顔画像とライブラリ内の顔画像間の類似度を分析します。類似度が閾値に達した場合、顔画像比較が成功し、顔画像が認識されます。

6. 「**検索**」をクリックします。

4.2 クイックバックアップ

開始前に

ビデオレコーダーにバックアップデバイスを接続してください。

手順

1. 「**検索**」に移動します。
2. 検索条件を設定します。
3. 「**クイックエクスポート**」をクリックします。
4. バックアップデバイスとパスを選択します。
5. **[OK]**をクリックしてエクスポートを開始します。

第5章 設定（簡易モード）

簡易モードには基本設定が含まれます。設定に移動し、簡易モードをクリックします。

5.1 システム設定

5.1.1 全般

出力解像度、システム時刻などを設定できます。

手順

1. [設定] → [→] → [システム] → [→] → [全般] に移動します。
2. 必要に応じてパラメータを設定します。

ウィザード

デバイス起動後にウィザードが表示されます。

パスワード不要ログイン

パスワードなしでログインできます。

NTP時刻同期

ネットワーク時間プロトコル（NTP）は時刻同期のためのネットワークプロトコルです。本デバイスはNTP（ネットワーク時間プロトコル）サーバーに接続して時刻を同期できます。

間隔（分）

NTPサーバーとの2回の時刻同期の間隔時間。

NTPサーバー

NTPサーバーのIPアドレス。

3. [適用]をクリックします。

5.1.2 ユーザー

ユーザーの追加

デフォルトアカウント：管理者。管理者ユーザー名は**admin**です。管理者はユーザーの追加、削除、編集権限を有します。ゲストユーザーはライブビュー、再生、ログ検索のみ許

可されます。

手順

1. **[設定]** → **[→]** → **[システム]** → **[→]** → **[ユーザー]** に移動します。
 2. 「**追加**」をクリックし、管理者パスワードを確認します。
 3. ユーザー名を入力します。
 4. ユーザーレベルを選択します。
 5. 「**パスワードの作成**」と「**確認**」に同じパスワードを入力します。
-

警告

製品のセキュリティを強化するため、ご自身で選択した強力なパスワードの作成を強く推奨します。

8～16文字。パスワードに以下の文字を含めないでください：ユーザー名、123、admin、4桁以上の連続した昇順/降順の数字、または4文字以上の連続した同一文字。以下のタイプから少なくとも2種類を含める必要があります：数字、大文字、小文字、特殊文字。危険なパスワードは使用できません。

特に高セキュリティシステムでは、パスワードを定期的にはリセットすることを推奨します。月次または週次でのリセットにより、製品をより効果的に保護できます。

6. ユーザー権限を設定します。
7. **[OK]**をクリックします。
 - ユーザーを編集/削除するには、 /  をクリックしてください。

パスワードリセット用メールアドレスの設定

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、デバイスはパスワードリセット用の確認コードを含むメールを登録メールアドレスに送信します。

手順

1. **設定** → **→** **システム** → **→** **ユーザー** に移動します。
2. 「**パスワードリセットメール**」をクリックします。
3. 認証のため管理者パスワードを入力します。
4. メールアドレスを入力します。
5. **[OK]**をクリックします。

パスワードのリセット

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、パスワードをリセットできます。

手順

1. パスワードログイン画面で「**パスワードを忘れた場合**」をクリックします。
-

2. プライバシーポリシーに同意する場合は「次へ」をクリック。QRコードをスキャンして確認できます。
3. ウィザードに従ってパスワードをリセットします。

5.1.3 例外

アラームセンターで例外イベントのヒントを受信し、例外連動アクションを設定できます。

手順

1. 設定 →→→ システム →→→ 例外 に移動します。
2. オプション： イベント通知を設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターで通知を受け取れます。
 - 1) イベント通知を有効化します。
 - 2) ローカルメニュー右上の「」をクリックし、アラームセンターに入ります。
 - 3) イベントタイプを選択します。
 - 4) [Set]をクリックし、通知対象のイベントを選択します。
3. 例外タイプの設定
4. 例外連動アクションには「通常連動」タイプを選択します。
5. 「適用」をクリックします。

5.2 ネットワーク構成

5.2.1 概要

ネットワーク経由でデバイスを操作する前に、ネットワーク設定を適切に構成してください。

手順

1. [設定]→[ネットワーク]→[一般] に移動します。
2. ネットワークパラメータを設定します。

DHCP

DHCPサーバーが利用可能な場合、**DHCP**を有効にしてそのサーバーからIPアドレスやその他のネットワーク設定を自動的に取得できます。

自動取得DNS

DHCPが有効な場合、**優先DNS**サーバーと**代替DNS**サーバーを自動的に取得するために「**DNSの自動取得**」を有効にできます。

3. [適用]をクリックします。

5.2.2 HiLookVision

HiLookVision は、接続されたデバイスにアクセスして管理するための携帯電話アプリケーションおよびプラットフォームサービスを提供しており、ビデオセキュリティシステムへの便利なりモートアクセスを可能にします。

手順

1. [設定] → [→] → [ネットワーク] → [→] → [プラットフォームアクセス] に移動します。
2. アクセス タイプを **HiLookVision** に選択します。
3. [有効化] にチェックを入れます。サービス利用規約が表示されます。
 - 1) QRコードをスキャンし、利用規約とプライバシーポリシーを確認してください。
 - 2) サービス利用規約とプライバシーポリシーに同意する場合は、「サービス利用規約とプライバシーポリシーを読み、同意します」にチェックを入れます。
 - 3) [OK]をクリックします。
4. オプション: ストリーム暗号化にチェックを入れます。この機能を有効にした後、リモートアクセスとライブビューで認証コードの入力が必要になります。
5. オプション: [カスタム] を選択し、[サーバーアドレス] を編集します。
6. 「認証コード」欄にコードを入力してください。「更新」をクリックするとランダムな認証コードが生成されます。
7. デバイスをHiLookVisionアカウントに紐付けます。
 - 1) スマートフォンでQRコードをスキャンし、HiLookVisionアプリをダウンロードします。<https://appstore.hikvision.com>または下記のQRコードからもダウンロード可能です。詳細はHiLookVision モバイルクライアントユーザーマニュアルを参照してください。
 - 2) HiLookVisionでデバイスのQRコードをスキャンし、デバイスを紐付けます。

注意

デバイスが既にアカウントに紐付けされている場合、現在のアカウントとの紐付けを解除する必要があります。

8. [適用]をクリックします。

次の操作

HiLookVisionからビデオレコーダーにアクセスできます。

5.2.3 メール

イベント通知を受信するメールアカウントを設定します。

開始前に

- メールのSMTPサービスが利用可能であることを確認してください。
- ネットワークパラメータを設定してください。詳細は「基本設定」を参照してください

い。

手順

1. [設定] → [→] → [ネットワーク] → [→] → [メール] に移動します。
2. メールパラメータを設定します

サーバー認証

サーバー認証機能を有効にするにはチェックを入れます。

ユーザー名

SMTPサーバー認証用のメール送信者ユーザーアカウント。

パスワード

SMTPサーバー認証用のメール送信者のパスワード。

SMTPサーバー/SMTPポート

SMTPサーバーを選択すると、そのアドレスとポートが自動的に表示されます。実際の必要に応じて編集することも可能です。

SSL/TLS

(オプション) SMTPサーバーが要求する場合、SSL/TLSを有効にしてください。

添付画像

(オプション) イベントがトリガーされた場合、画像をメール添付として送信します。

送信者

送信者名。

送信者アドレス

送信者のメールアドレス。

受信者を選択

受信者を選択してください。最大3名まで選択可能です。

受信者

受信者名。

受信者の住所

受信者のメールアドレス。

注記

ネットワークカメラの場合、イベント画像はメールの添付ファイルとして直接送信されます。1台のネットワークカメラが送信する画像は1枚のみです。

3. オプション: テストをクリックしてテストメールを送信します。

4. **[適用]**をクリックします。

5.3 カメラ

5.3.1 ネットワークカメラ

信号入力の設定

特定のデジタルビデオレコーダーモデルでは、アナログおよび IP 信号入力タイプを設定できます。

手順

1. **[設定]** → **[→ カメラ]** → **[→ アナログ]** → **[→ アナログ]** に移動します。
2. 各チャンネルの信号入力タイプを**HD/CVBS**または**IP**から選択します。

HD/CVBS

チャンネルには、ターボHD、AHD、HDCVI、CVBSを含む4種類のアナログ信号入力を任意に接続できます。

IP

ネットワークカメラを接続できます。

3. **「適用」**をクリックします。**「最大IPカメラ数」**で接続可能なネットワークカメラの最大数を確認できます。

デバイスパスワードによるネットワークカメラの追加

ビデオレコーダーと同じパスワードを使用するネットワークカメラを追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。詳細は **「基本設定」** を参照してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同一であることを確認してください。

手順

1. **「設定」** → **「→ カメラ」** → **「→ IPカメラ」** を選択します。ビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上のオンラインカメラが**「オンラインデバイス一覧」**に表示されます。
2. 目的のネットワークカメラを選択します。

3. 「」をクリックしてカメラを追加します。

 注記

カメラが非アクティブ状態の場合、デバイスはアクティベーション時に設定したパスワードを使用して自動的にカメラをアクティブ化します。

4. オプション：ネットワークカメラがDVRと同じネットワークセグメントにない場合、かつONVIFプロトコルをサポートしている場合は、「**詳細検索**」をクリックし、カメラのIPアドレスの最初の3オクテットを入力してカメラを追加します。

ネットワークカメラを手動で追加

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上にあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラが起動していることを確認してください。

手順

1. 「**設定**」→「**→ カメラ**」→「**→ IPカメラ**」に移動します。
 2. **追加済みデバイス一覧**で「」をクリックします。
 3. IPアドレス、プロトコル、管理ポートなどのネットワークカメラパラメータを設定します。
 4. オプション：**カメラ名**をダブルクリックして名前を編集します。
-

 注記

カメラ名は、カメラの状態がオンラインの場合にのみ編集できます。

5. オプション：「**カメラ起動パスワードを使用**」を有効にすると、デバイスパスワードを使用してネットワークカメラを追加できます。
6. オプション：「**さらに追加**」をクリックして別のネットワークカメラを追加します。
7. 「**追加**」をクリックします。

接続済みネットワークカメラの編集

追加したネットワークカメラのIPアドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

手順

1. **設定**→ **カメラ**→ **IPカメラ** に移動します。
2. 選択したカメラを編集するには、 をクリックします。

チャンネルポート

接続デバイスが複数チャンネル対応のエンコーディングデバイスである場合、接続するチャンネルを選択するためにチャンネルポート番号を選択できます。

3. **[OK]**をクリックします。

5.3.2 OSD設定

日付形式、カメラ名など、カメラの OSD (オンスクリーンディスプレイ) 設定を構成します。

手順

1. **[設定]** → **[→]** → **[カメラ]** → **[→]** → **[OSD]** に移動します。
2. カメラを選択します。
3. 必要に応じてパラメータを設定します。
4. プレビューウィンドウ上のテキスト枠をドラッグしてOSDの位置を調整します。
5. **[適用]**をクリックします。

5.3.3 動体検知

モーション検知機能により、監視エリア内の移動物体を検知し、アラームを起動できます。

手順

1. 「**設定**」 → 「**カメラ**」 → 「**モーション検知**」に移動します。
2. カメラを選択します。
3. 「**有効化**」にチェックを入れます。
4. モーションエリアを設定: **[エリアを描画]** または **[クリア]** をクリックしてエリアを描画またはクリアします。



注記

操作手順は機種によって異なる場合があります。

5. **感度**を調整します。感度設定により、動きがアラームをトリガーする閾値を調整できます。数値が高いほど、動きがより敏感に検知されます。
6. 分析モードを**AI**または**PIR**に設定します。

AI

動作イベントはデバイスによって分析されます。

PIR

特定のアナログPIRカメラが動作イベントを分析します。

7. オプション: 検知対象を「**人**」または「**車両**」に設定し、人または車両以外によって引き起こされたアラームを排除します。

8. 警戒スケジュールを設定します。詳細は「[警戒スケジュールの設定](#)」を参照してください。
9. 連動アクションを設定します。詳細は「[アラーム連動アクションの設定](#)」を参照してください。
10. **[適用]**をクリックします。

5.4 アラーム連動アクションの設定

アラームまたは例外が発生した場合、アラーム連動アクションが起動されます。

手順

1. 「**連動アクション**」をクリックします。
2. 通常連動アクション、アラーム出力連動アクション、トリガーチャンネルなどを設定します。

アラームポップアップウィンドウ

アラームがトリガーされると、ローカルモニターにアラーム発生チャンネルの画像がポップアップ表示されます。トリガーチャンネルでアラーム発生チャンネルを選択する必要があります。

ブザーアラーム

アラーム発生時にブザー音を発します。

監視センターへの通知

アラーム発生時に、デバイスは例外またはアラーム信号をリモートクライアントソフトウェアに送信します。

メール送信

アラームが作動した際に、アラーム情報を含むメールを送信します。

トリガーチャンネル

選択したチャンネルの録画を開始します。設定→Record→**Schedule**で、チャンネルの録画スケジュールを設定する必要があります。

3. **[適用]**をクリックします。

5.5 警戒スケジュール設定

手順

1. 「**アーミングスケジュール**」を選択します。
2. 週の1日を選択し、時間帯を設定します。1日あたり最大8つの時間帯を設定可能です。



注記

時間帯は重複または重なって設定できません。

3. 「適用」をクリックします。

5.6 記録管理

5.6.1 ストレージデバイス

HDD の初期化

新しく取り付けたハードディスクドライブ (HDD) は、ビデオや情報を保存するために使用する前に初期化する必要があります。

開始前に

ビデオレコーダーに少なくとも1台のHDDを取り付けてください。詳細な手順についてはクイックスタートガイドを参照してください。

手順

1. 「設定」→「→」→「録画」→「→」→「ストレージ」に移動します。
2. HDDを選択します。
3. 「初期化」をクリックします。

データベース修復

データベースにエラーが発生したHDDを修復します。専門の技術サポートの支援のもとで操作してください。

ネットワークディスクの追加

割り当て済みのNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワークHDDとして使用できます。

手順

1. 設定 →→→ 記録 →→→ ストレージ に移動します。
2. 「追加」をクリックします。
3. NetHDDを選択します。
4. タイプをNASまたはIP SANに設定します。
5. NetHDDのIPアドレスを入力します。
6. 「🔍」をクリックして利用可能なディスクを検索します。

7. リストからNASディスクを選択するか、**NetHDD**ディレクトリに手動でディレクトリを入力します。
8. **OK**をクリックします。追加された**NetHDD**がストレージデバイス一覧に表示されます。

5.6.2 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは設定されたスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

手順

1. **[設定]** → **[→]** → **[Record]** → **[→]** **[Parameter]** に移動します。
2. カメラのメインストリーム/サブストリーム連続録画パラメータを設定します。詳細は [録画パラメータの設定](#)を参照してください。
3. **設定** → **Record** → **Schedule** に移動します。
4. 録画タイプを「**連続**」に選択します。詳細は「[スケジュールの編集](#)」を参照してください。

イベント録画の設定

モーション検知による録画を設定できます。

手順

1. **設定** → **Camera** → **Motion** に移動します。
2. イベント検出を設定し、イベント発生時に録画をトリガーするチャンネルを選択します。
3. **設定** → **Record** → **Parameter** に移動します。
4. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。詳細は [録画パラメータの設定](#)を参照してください。
5. **[設定]** → **[→]** → **[レコード]** → **[→]** → **[スケジュール]** に移動します。
6. 録画タイプを「**イベント**」に選択します。詳細は「[スケジュールの編集](#)」を参照してください。

スケジュール編集

手順

1. **設定** → **記録** → **スケジュール** に移動します。

連続

連続録画。

イベント

イベントによって録画がトリガーされます。

2. **カメラ番号**でカメラを選択します。
3. **有効化**をオンにする。
4. 録画スケジュールを設定します。

スケジュールの編集

1. **編集**をクリックします。
2. 「**平日**」で設定する曜日を選択します。
3. 終日録画スケジュールを設定するには、「**終日**」にチェックを入れ、スケジュールタイプを選択します。
4. その他のスケジュールを設定するには、「**終日**」のチェックを外し、「**開始/終了時間**」とスケジュールタイプを設定します。



1日あたり最大8つの時間帯を設定できます。また、時間帯同士が重複することはできません。

5. 設定を保存して上位メニューに戻るには「**OK**」をクリックしてください。

スケジュールを描画

1. クリックしてスケジュールタイプを「**連続**」または「**イベント**」から選択します。
2. テーブル上で、希望する期間にマウスをドラッグして色付きのバーを描画します。

5. **[適用]**をクリックします。

5.6.3 記録パラメータの設定

手順

1. **[設定]** → **[→]** → **[Record]** → **[→]** → **[Parameter]** に移動します。
2. 録画パラメータを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与える主要なストリームであり、動画の品質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較して、メインストリームはより高い解像度とフレームレートで高品質な動画を提供します。

サブストリーム

サブストリームはメインストリームと並行して動作する第二のコーデックです。直接

録画品質を損なうことなく、インターネット送信帯域幅を削減できます。サブストリームは主にスマートフォンアプリがライブ映像を視聴するために使用されます。インターネット速度が制限されているユーザーはこの設定から最大の恩恵を受けられます。

解像度

画像解像度は、デジタル画像が保持できる詳細度の尺度です。解像度が高いほど、詳細レベルも高くなります。解像度はピクセル列数（幅）×ピクセル行数（高さ）で指定されます。例：1024×768。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間にキャプチャされるフレーム数を指します。動画ストリームに動きがある場合、フレームレートが高いほど画質が維持されるため有利です。

最大ビットレート

最大ビットレートを設定します。ビットレート（Kbit/s または Mbit/s）は速度と呼ばれることがありますが、実際には時間単位あたりのビット数を定義するもので、距離/時間単位ではありません。

エンコードタイプ

動画エンコード方式を設定します。

H.265+を有効にする

H.265+を有効または無効にします。



解像度、フレームレート、ビットレートを高く設定すると動画品質は向上しますが、インターネット帯域幅をより多く消費し、ハードディスクドライブのストレージ容量もより多く使用します。

3. **[適用]**をクリックします。

第6章 設定（エキスパートモード）

設定に移動し、左下隅の「エキスパートモード」をクリックします。

6.1 システム設定

6.1.1 一般

基本設定の構成

ビデオ品質モード、出力解像度、マウスポインタ速度、ウィザードなどを設定できます。
設定→ システム→ 一般→ 基本設定 に移動し、必要に応じてパラメータを設定して、適用 をクリックします。

VGA/HDMI解像度

出力解像度を選択します。これは VGA/HDMI ディスプレイの解像度と同じである必要があります。

画質モード

デフォルトモードは標準です。

マウスポインタ速度

マウスポインタの速度を設定します。4段階の設定が可能です。

パスワード不要ログイン

パスワードなしでログインできます。

ウィザード

デバイス起動後にウィザードが表示されます。

地域と時刻の設定

言語、システム時刻、地域などを設定できます。

詳細設定

デバイスの名前、ロック画面の時間、出力モードなどを設定できます。

設定→ システム→ 一般→ 詳細設定 に移動し、必要に応じてパラメータを設定して「適用」をクリックしてください。

デバイス名

ビデオレコーダーの名前を編集します。

デバイス番号

リモートコントロールやネットワークキーボードなどとの接続時に必要な番号です。ビデオレコーダーのシリアル番号を編集します。デバイス番号の範囲は1から255までで、デフォルト値は255です。

画面ロック

画面ロックのタイムアウト時間を設定します。

メニュー出力モード

ローカルメニュー表示用の出力先を選択します。

CVBS出力輝度

CVBS出力の輝度を設定します。

出力規格

NTSCまたは**PAL**に設定します。ビデオ入力規格と一致させる必要があります。

1080P Liteモード

1080P Liteモードが有効な場合、**1080P Lite**（リアルタイム）でのエンコード解像度がサポートされます。無効な場合、最大**1080P**（非リアルタイム）がサポートされます。

6.1.2 ライブビュー

一般パラメータの設定

出力インターフェース、音声のミュートまたはオン、イベント出力インターフェースなどを設定できます。

手順

1. **[設定]**→**[システム]**→**[ライブビュー]**→**[一般]** に移動します。
2. ライブビューのパラメータを設定します。

ウィンドウ分割

ライブビューのウィンドウ分割を選択します。

自動切り替え間隔

ライブビューで自動切り替えが有効な場合、カメラに滞在する時間（秒）。

アラームポップアップ出力

アラーム動画を表示する出力先を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を設定します。

オーディオ

選択した映像出力の音声出力をオン/オフします。

音量

選択したビデオ出力インターフェースのライブビュー、再生、双方向オーディオの音量を調整します。

3. **[適用]**をクリックします。

ライブビューレイアウトの設定

手順

1. **[設定]** → **[→]** → **[システム]** → **[→]** → **[ライブビュー]** → **[→ ビュー]** に移動します。
2. 「出力インターフェース」を設定します。
3. ウィンドウを選択し、表示したいカメラをリストからダブルクリックします。「**+**」はウィンドウにカメラを表示しないことを意味します。
4. オプション: 全カメラのライブビューを開始または停止するには、**[🔄]** または **[🔴]** をクリックします。
5. **[Apply]** をクリックします。

Channel-Zero エンコーディングの設定

ウェブブラウザやCMS（クライアント管理システム）ソフトウェアから多数のチャンネルをリアルタイムでリモート表示する必要がある場合、画質を損なわずに帯域幅要件を削減するため、チャンネルゼロエンコーディングを有効にします。

手順

1. **設定** → **システム** → **ライブビュー** → **一般** に移動します。
2. ビデオ出力インターフェースを **Channel-Zero** に設定します。
3. **設定** → **システム** → **ライブビュー** → **Channel-Zero** に移動します。
4. 有効化をオンにします。
5. フレームレート、最大ビットレートモード、最大ビットレートを設定します。フレームレートとビットレートが高いほど、より高い帯域幅が必要となります。
6. **[適用]**をクリックします。

6.1.3 ユーザー

詳細は「[ユーザー](#)」を参照してください。

6.2 ネットワーク設定

6.2.1 基本設定

TCP/IP

ネットワーク経由でビデオレコーダーを操作する前に、TCP/IP を適切に設定する必要があります。

手順

1. 設定→ ネットワーク→ 一般→ **TCP/IP** に移動します。
2. ネットワークパラメータを設定します。

動作モード

マルチアドレスモード

2枚のNICカードのパラメータは個別に設定可能です。パラメータ設定では、NICタイプフィールドでLAN1またはLAN2を選択できます。いずれか1枚のNICカードをデフォルトルートとして選択可能です。これにより、システムはエクストラネットに接続され、データはデフォルトルートを経由して転送されます。

ネットフォールトトレランスモード

2枚のNICカードは同一IPアドレスを使用し、メインNICをLAN1またはLAN2に選択できます。これにより、1枚のNICカードに障害が発生した場合、ビデオレコーダーは自動的に別のスタンバイNICカードを有効化し、システム全体の正常な稼働を確保します。

負荷分散モード

同一IPアドレスを使用し、2枚のNICカードが総帯域幅の負荷を共有します。これによりシステムは2つのギガビットネットワーク容量を提供可能です。

注記

動作モードは特定モデルでのみ利用可能です。

NICタイプ

ご希望に応じてNICタイプを選択してください。お使いのデバイスがWi-Fi Dongle機能をサポートしている場合、適切なWi-Fi Dongleをインストールすると、そのDongleのNICが選択可能になります。

DHCP

DHCPサーバーが利用可能な場合、「**DHCPを有効にする**」にチェックを入れることで、そのサーバーから自動的にIPアドレスやその他のネットワーク設定を取得できま

す。

MTU

最大伝送単位（MTU）とは、単一のネットワークトランザクションで通信可能な最大サイズのネットワーク層プロトコルデータ単位を指します。

デフォルトルート

ご希望のルートを選択してください。お使いのデバイスがWi-Fi dongle機能をサポートしている場合、適切なWi-Fi dongleがインストールされると、Wi-Fi dongleのルートが選択可能になります。

自動DNS取得

DHCPがチェックされている場合、「DNSを自動的に取得」をチェックすると、優先DNSサーバーと代替DNSサーバーを取得できます。

3. [適用]をクリックします。

DDNS

ダイナミックドメインネームサーバー（DDNS）は、動的なユーザーIPアドレスを固定のドメインネームサーバーにマッピングします。

開始前に

DynDNS、PeanutHull、NO-IPの各サービスをISPに登録してください。

手順

1. 設定→ ネットワーク→ 一般→ **DDNS** に移動します。
2. 有効化をオンにします。
3. DDNSタイプを選択します。
4. サービスアドレス、ドメイン名などのパラメータを入力します。
5. [適用]をクリックします。

次の手順

ステータスでDDNSの状態を確認できます。

NAT

セグメント間ネットワーク経路のリモートアクセスを実現するためのポートマッピングには、UPnP（™）と手動マッピングの2つの方法が用意されています。

開始前に

™UPnP™ が必要な場合は、ルーターの UPnP 機能（ ）を有効にしてください。デバイスのネットワーク動作モードがマルチアドレスの場合、デフォルトデバイスルートはルーターの LAN IP アドレスと同じネットワークセグメント上に設定する必要があります。

手順

→→1. [設定] → [ネットワーク設定] → [一般設定] → [→] → [NAT] に移動します。

2. [有効化]をオンにします。

3. マッピングタイプを「手動」または「自動」に選択

自動

ポートマッピング項目は読み取り専用となり、外部ポートはルーターが自動設定します。最新状態を取得するには「更新」をクリックしてください。

手動

外部ポートタイプを選択します。「」をクリックして外部ポートを編集します。デフォルトの外部ポート番号を使用するか、実際の要件に応じて変更できます。外部ポートはルーター内でのポートマッピング用ポート番号を示します。

RTSPポート番号は554または1024～65535の範囲である必要があります。その他のポート番号は1～65535の範囲で設定可能ですが、各デバイス間で重複しない値を設定してください。同一ルーター下で複数のデバイスがUPnP™ 設定されている場合、各デバイスのポート番号は一意である必要があります。

4. ルーターの仮想サーバーを設定します（内部送信元ポート、外部送信元ポートなどを含む）。仮想サーバーのパラメータは、お使いのデバイスのポートに対応している必要があります。

Wi-Fi

特定のモデルでは、Wi-Fi Dongleをデバイスにインストールすると、デバイスが無線ネットワークに接続可能となり、Wi-Fi経由でデバイスのチャンネルを閲覧できます。例えば、デバイスが複数のネットワークカメラやアナログカメラ（現在のところWi-Fiネットワークカメラは接続不可）に接続されている場合、デバイスが無線ネットワークに接続されると、Wi-Fi経由でデバイスにアクセスし、接続されたチャンネルを閲覧できるようになります。

始める前に

- 適切なWi-Fi Dongleを準備し、背面パネルのUSBインターフェースに挿入してください。
- お使いのデバイスがこの機能をサポートしていることを確認してください。

手順

1. [設定] → [ネットワーク] → [一般] → [Wi-Fi] に移動します。

注意

Wi-Fi Dongleを初めて挿入すると、Wi-Fi設定画面が自動的に表示されます。

2. 無線ネットワークに接続します。

自動的に検索された無線ネットワークに接続

1. リストから目的の無線ネットワークをダブルクリックします。
2. 無線ネットワークパラメータを設定します。
3. **[OK]**をクリックします。

カスタム無線ネットワークに接続する

1. **カスタム追加**をクリックします。
2. ワイヤレスネットワークのパラメータを設定します。
3. **[OK]** をクリックします。

WPS (Wi-Fi Protected Setup) でワイヤレスネットワークに接続する

1. **WPS設定**をクリックします。
2. **WPSを有効にする**にチェックを入れます。
3. ワイヤレスネットワークのパラメータを設定します。
4. **適用**をクリックします。

 注記

ネットワークを編集または削除する必要がある場合は、接続済みのネットワークをダブルクリックし、必要に応じて編集してください。

利用可能な無線ネットワークに接続後、接続結果は「**接続状態**」で確認できます。

3. **[設定] → [→] → [ネットワーク] → [→] → [全般] → [→] → [TCP/IP]** に移動します。
4. **NIC選択**とデフォルトルートを**WLAN0**に設定します。
5. **Wi-Fiを有効にする**にチェックを入れます。
6. その他のネットワークパラメータを設定します。
7. **[適用]**をクリックします。

NTP

お使いのデバイスは、システム時刻を正確に保つためにネットワーク時刻プロトコル (NTP) サーバーに接続できます。

手順

1. **設定 → ネットワーク → 一般 → NTP** に移動します。
2. **[有効化]** をオンにします。
3. パラメータを入力します。

間隔

NTPサーバーとの2回の時刻同期の間隔。

NTPサーバー

NTPサーバーのIPアドレス。

4. **[適用]**をクリックします。

ログサーバー設定

サーバーへのログアップロード

システムログをサーバーにアップロードしてバックアップできます。

手順

1. **[設定]→[ネットワーク]→[一般]→[ログサーバー設定]** に移動します。
2. **[有効化]** をオンにします
3. **アップロード間隔、サーバーIPアドレス、ポート**を設定します。
4. オプション:**[テスト]** をクリックし、パラメータが有効か確認します。
5. **[適用]**をクリックします。

ポート（詳細設定）

必要に応じて異なるポートタイプを設定し、関連機能を有効にします。

設定→ ネットワーク→ 一般→ 詳細設定 に移動します。

アラームホスト IP/ポート

アラーム発生時、本デバイスはアラームイベントまたは例外メッセージをアラームホストへ送信します。リモートアラームホストにはクライアント管理システム（CMS）ソフトウェアのインストールが必要です。

アラームホストIPは、CMSソフトウェア（例：iVMS-4200）がインストールされているリモートPCのIPアドレスを指し、アラームホストポート（デフォルト7200）はソフトウェアで設定されたアラーム監視ポートと同じである必要があります。

サーバーポート

リモートクライアントソフトウェアアクセス用。2000～65535の範囲。デフォルト値は8000。

HTTPポート

リモートWebブラウザアクセス用。デフォルト値は80。

マルチキャストIP

ネットワーク経由で許可される最大台数を超えるカメラのライブビューを有効にするため、マルチキャストを設定できます。マルチキャストIPアドレスは224.0.0.0から239.255.255.255までのクラスD IPをカバーし、239.252.0.0から239.255.255.255の範囲のIPアドレスの使用が推奨されます。

CMS ソフトウェアにデバイスを追加する場合、マルチキャストアドレスはデバイスのアドレスと同じである必要があります。

RTSPポート

RTSP（リアルタイムストリーミングプロトコル）は、ストリーミングメディアサーバーを制御するためにエンターテインメントおよび通信システムで使用するネットワーク制御プロトコルです。デフォルトのポートは554です。

出力帯域幅制限

チェックボックスをオンにすると、出力帯域幅制限を有効にできます。

IPアドレス自動適応

有効化後、デバイスのIPアドレスが競合した場合、自動的に変更されます。ネットワークカメラとLANが同一のIPアドレスセグメントにない場合、接続されたネットワークカメラのIPアドレスは現在のIPアドレスセグメントに自動的に編集されます。

出力帯域幅

出力帯域幅制限を有効にした後、出力帯域幅を入力してください。



注意

- 出力帯域幅制限は、リモートライブビューおよび再生に使用されます。
 - デフォルトの出力帯域幅は最大制限値です。
-

6.2.2 プラットフォームアクセス

Hik-Connect

設定→ ネットワーク→ プラットフォームアクセス に移動します。詳細は [Hik-Connect](#) を参照してください。

ISUP

SDKはIntelligent Security Uplink Protocol（ISUP）に基づいています。サードパーティプラットフォームがNVR、スピードドーム、DVR、ネットワークカメラ、モバイルNVR、モバイルデバイス、デコードデバイスなどのデバイスにアクセスするためのAPI、ライブラリファイル、コマンドを提供します。このプロトコルにより、サードパーティプラットフォームはライブビュー、再生、双方向オーディオ、PTZ制御などの機能を実現できます。

手順

1. 設定→ ネットワーク→ プラットフォームアクセス に移動します。
2. タイプをISUPに設定します。
3. 有効化をオンにします。



注記

ISUPを有効にすると、他のプラットフォームアクセスは無効になります。

4. 関連するパラメータを設定します。

サーバーアドレス

プラットフォームサーバーのIPアドレス。

サーバーポート

プラットフォームサーバーのポート。1024～65535の範囲。実際のポートはプラットフォームが提供する。

デバイスID

デバイスIDはプラットフォームから提供される。

バージョン

ISUPプロトコルバージョン。利用可能なのはV5.0のみ。

暗号化パスワード

ISUP V5.0バージョン使用時には暗号化パスワードが必要です。これによりデバイスとプラットフォーム間の通信がより安全になります。デバイスをISUPプラットフォームに登録後、確認のため入力してください。

5. [適用]をクリックして設定を保存し、デバイスを再起動します。

次の手順

デバイス再起動後、オンライン状態（オンライン/オフライン）を確認できます。

OTAPサービス

手順

1. [設定] → [→] → [ネットワーク] → [→] → [プラットフォームアクセス] に移動します。
2. タイプを**OTAPサービス**に設定します。
3. **有効化**をオンにします。



注記

OTAPサービスを有効にすると、他のプラットフォームへのアクセスは無効になります。

4. 関連するパラメータを設定します。

サーバーアドレス

プラットフォームサーバーのIPアドレス。

ポート

プラットフォームサーバーのポートは1～65535の範囲です。デフォルト値は7800です。実際のポートはプラットフォームから提供されます。

デバイスID

デバイスIDはデバイスによって提供される必要があります。

キー

キーは、サーバーが登録情報を受信した際の検証に使用されます。キーは6～12文字で構成されます。デフォルトのキーはabc12345です。

5. **[適用]**をクリックして設定を保存し、デバイスを再起動します。

次の手順

デバイスの再起動後、登録状態（オンラインまたはオフライン）を確認できます。

6.2.3 メール

設定→ ネットワーク→ メール に移動します。詳細は メール を参照してください。

6.3 カメラ管理

6.3.1 信号入力の設定

特定のデジタルビデオレコーダーモデルでは、アナログおよび IP 信号入力タイプを設定できます。

手順

1. 設定→ カメラ→ アナログ に移動するか、設定→ カメラ→ カメラ の右上隅にある**編集**をクリックします。
2. 信号入力タイプを**HD/CVBS**または**IP**から選択します。

HD/CVBS

チャンネルには、ターボHD、AHD、HDCVI、CVBSを含む4種類のアナログ信号入力を任意に接続できます。

IP

ネットワークカメラをチャンネルに接続できます。

3. **[適用]**をクリックします。最大接続可能ネットワークカメラ数は**[最大IPカメラ数]**で確認できます。

6.3.2 ネットワークカメラ

自動検索されたオンラインネットワークカメラを追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同一であることを確認してください。

手順

1. [設定] → [→ カメラ] → [→ カメラ] に移動します。
2. 「オンラインデバイス一覧」をクリックします。同一ネットワークセグメント上のオンラインカメラが一覧に表示されます。
3. オプション：一括でカメラのIPアドレスを編集するには「IP編集」をクリックします。システムは選択したカメラに順番にIPアドレスを割り当てます。

注記

- 選択したカメラが有効化されていることを確認してください。
 - ネットワークカメラがオンライン状態の場合、カメラ名をダブルクリックすると編集できます。
-

4. ネットワークカメラを選択し、「追加」をクリックして追加します。

ネットワークカメラを手動で追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラが有効になっていることを確認してください。

手順

1. [設定] → [→ カメラ] → [→ カメラ] に移動します。
2. 「」をクリックします。
3. ネットワークカメラのパラメータを入力します。

カメラ有効化パスワードを使用する

有効にすると、ビデオレコーダーは設定されたチャンネルのデフォルトパスワードでカメラを追加します。

4. 「追加」をクリックします。

異なるネットワークセグメント上のネットワークカメラの追加

ネットワークカメラが別のネットワークセグメントにある場合、デバイスは指定されたIPアドレス範囲内でそのIPアドレスを検索し、追加できます。

開始前に

- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同一であることを確認してください。

手順

1. [設定] → [→ カメラ] → [→ カメラ] に移動します。
2. 「詳細検索」をクリックします。
3. ネットワークセグメントを入力します。
4. 「追加」をクリックします。

プラグアンドプレイによるネットワークカメラの追加

非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製ONVIFカメラがネットワークに接続されている場合、ビデオレコーダーが自動的にカメラを検出して追加するか、手動追加を通知することがあります。

手順

1. 設定 → カメラ → カメラ に移動します。
2. [詳細設定]をクリックします。
3. 「プラグアンドプレイ」を選択します。
4. オプション: ネットワークカメラの自動追加を有効にします。ビデオレコーダーが非アクティブなネットワークカメラやサードパーティ製ONVIFカメラを自動的に検出し追加します。

注記

「ネットワークカメラの自動追加」を無効にした場合、非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製ONVIFカメラがネットワークに接続されると、ビデオレコーダーが自動的に検出し、追加を促す通知が表示されます。

ネットワークカメラの編集

ネットワークカメラのIPアドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

手順

1. 「設定」→「→ カメラ」→「→ カメラ」に移動します。
2. 追加済みのネットワークカメラの「」をクリックします。

チャンネルポート

接続デバイスが複数チャンネル対応のエンコーディングデバイスである場合、ドロップダウンリストからチャンネルポート番号を選択して接続するチャンネルを選べます。

3. オプション: **[IP編集]**をクリックすると、カメラのIPアドレスを一括編集できます。システムは選択したカメラに順番にIPアドレスを割り当てます。
4. **[OK]**をクリックします。

ネットワークカメラのアップグレード

ネットワークカメラは、デバイスを介してリモートでアップグレードできます。

開始前に

- USBフラッシュドライブがデバイスに挿入されていること、およびネットワークカメラのアップグレードファームウェアが含まれていることを確認してください。
- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. **[設定]**→**[→ カメラ]**→**[→ カメラ]**に移動します。
2. 「」をクリックします。
3. 確認のため「はい」をクリックします。
4. ストレージデバイスからカメラのアップグレード用ファームウェアを選択します。
5. **[アップグレード]**をクリックしてアップグレードを開始します。アップグレード完了後、カメラは自動的に再起動します。

高度なカメラパラメータの設定

カメラのIPアドレスやパスワードなどの詳細設定が可能です。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効かつ正しいことを確認してください。

手順

1. 「設定」→「→ カメラ」→「→ カメラ」に移動します。
2. 「」をクリックします。
3. IPアドレス、カメラパスワードなどのカメラパラメータを設定します。
4. [適用]をクリックします。

IPカメラ設定ファイルのインポート/エクスポート

追加したネットワークカメラの情報（IPアドレス、ポート、管理者パスワードなど）をExcelファイルに生成し、ローカルデバイスにエクスポートしてバックアップできます。エクスポートしたファイルは、内容の追加・削除などの編集が可能で、Excelファイルを他のデバイスにインポートすることで設定をコピーできます。

開始前に

ビデオレコーダーにUSBフラッシュドライブなどのバックアップデバイスを接続してください。

手順

1. 「設定」→「→ カメラ」→「→ カメラ」を選択します。
2. [詳細設定]をクリックします。
3. 「エクスポート/インポート」をクリックし、接続したバックアップデバイスに設定ファイルをエクスポート/インポートします。
4. ストレージデバイスとフォルダパスを設定します。
5. 「エクスポート/インポート」をクリックします。

次の手順

インポート処理が完了したら、ビデオレコーダーを再起動する必要があります。

詳細設定

手順

1. 「設定」→「→ カメラ」→「→ カメラ」に移動します。
2. 「詳細」をクリックします。
3. 必要に応じてパラメータを設定します。

H.265自動切り替え設定

このオプションを有効にすると、デバイスはネットワークカメラ（H.265ビデオ形式をサポートするもの）に対して初回アクセス時に自動的にH.265ストリームに切り替わります。

アップグレード

追加したネットワークカメラをアップグレードします。

エクスポート/インポート

追加されたネットワークカメラの情報（IPアドレス、ポート、管理者パスワードなど）をExcelファイルに生成し、ローカルデバイスにエクスポートしてバックアップできます。エクスポートしたファイルは、内容の追加や削除などの編集が可能で、Excelファイルを他のデバイスにインポートすることで設定をコピーできます。

カメラ起動パスワード設定

ネットワークカメラの起動および追加用のデフォルトパスワードを変更します。既に接続済みのネットワークカメラについては、以下のポップアップウィンドウでパスワードをこの設定に変更するかどうかを選択できます。

一括設定

本デバイスは、SVC機能を有効化したり、選択したネットワークカメラの時刻を自動的に同期させることができます。

プラグアンドプレイ

プラグアンドプレイページで「ネットワークカメラの自動追加」を有効にします。ビデオレコーダーは自動的に非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製ONVIFカメラを検出し追加します。

6.3.3 表示設定

OSD（オンスクリーンディスプレイ）、画像設定、露出設定、デイ/ナイト切り替え設定などを設定します。

手順

- 1. 設定 → カメラ設定 → ディスプレイ設定 に移動します。
2. カメラを設定します。
3. 必要に応じてパラメータを設定します。

OSD設定

カメラのOSD（オンスクリーンディスプレイ）設定（日付、時刻、カメラ名など）を構成します。

画像設定

ライブビューおよび録画効果の明るさ、コントラスト、彩度などの画像パラメータをカスタマイズします。

露出

カメラの露光時間を設定します（1/10000～1秒）。露光値が大きいほど画像は明るくなります。

デイ/ナイト切替

周囲の照明条件や時間スケジュールに応じて、カメラを昼間、夜間、自動、またはスケジュール切り替えモードに設定できます。

逆光補正

カメラのワイドダイナミックレンジ（WDR）を設定します（0～100）。周囲の照明と被写体の明るさに大きな差がある場合、WDR値を設定してください。

画像強調

画像のコントラストを最適化して強調します。

カメラパラメータ設定

デイ/ナイトモード、補助照明モードなど、カメラパラメータを設定できます。詳細は「カメラパラメータ設定の構成」を参照してください。

4. プレビューウィンドウ上のテキストフレームをドラッグしてOSD位置を調整します。
5. **[適用]**をクリックします。

カメラパラメータ設定の構成

カメラパラメータ（昼夜モード、補助照明モードなど）を設定できます。

手順

1. 「カメラ」→「→ 表示」に移動します。
2. 対象のカメラを選択します。
3. 「カメラ名」で名前を編集します。
4. パラメータを設定します。

信号切替

信号切替で4MPまたは5MP信号を切り替えます。4MP 25/30fpsと5MP 20fpsが選択可能です。4MP 25fpsおよび4MP 30fps信号はカメラに自動適応します。

デフォグを有効化

選択したカメラのデフォグ機能を有効にするには、[デフォグを有効にする]にチェックを入れます。デフォグレベルを1から4の間で設定します。

昼夜感度/夜昼感度

カメラの昼から夜への感度、夜から昼への感度、IR光の明るさなどのパラメータを調整します。昼から夜への感度、夜から昼への感度、IR光の明るさのデフォルト値は5です。有効値の範囲は1から9です。

デイ/ナイトモード

ドロップダウンリストからカメラのデイ/ナイトモードを選択します。
デイモードでは、画像は常にカラーです。ナイトモードでは、画像は白黒です。

WDRスイッチ

WDRスイッチをチェックすると、カメラの機能が有効になります。

5. オプション：現在のカメラのパラメータを他のカメラにコピーするには、**コピー**をクリックします。
6. オプション：**[適用]**をクリックして設定を保存します。

 注記

パラメータは接続されたカメラに保存され、DVRには保存されません。インターフェースを終了して再度起動した場合、表示されるパラメータは前回設定した内容となります。カメラパラメータ設定は、該当機能をサポートするカメラにのみ適用されます。

6.3.4 プライバシーマスク

表示または録画できないプライバシーマスク領域を設定できます。

手順

- 1. 設定 → カメラ →→→ プライバシーマスク に移動します。
2. カメラを選択します。
3. [有効化] をオンにします。
4. ウィンドウ上で領域をドラッグして描画します。領域の枠線は異なる色で表示されます。

 注記

最大4つのプライバシーマスク領域を設定可能です。各領域のサイズは調整できます。

5. 「適用」をクリックします。

6.4 イベント設定

6.4.1 通常イベント

モーション検知

モーション検知は、監視エリア内の移動物体を検知し、アラームをトリガーします。

手順

1. [設定] → [→ カメラ] → [→ モーション検知] に移動します。
2. カメラを選択します。
3. 「有効化」にチェックを入れます。
4. モーションエリアを設定: [エリアを描画] または [クリア] をクリックしてエリアを描画またはクリアします。



注記

操作手順は機種によって異なる場合があります。

5. **感度**を調整します。感度設定により、動きがアラームをトリガーする閾値を調整できます。値が高いほど、動きがより敏感に検知されます。
6. 分析モードを**AI**または**PIR**に設定してください。

AI

動作イベントはデバイスによって分析されます。

PIR

動作イベントは特定のアナログPIRカメラによって分析されます。

7. オプション: **検知対象**を「人」または「車両」に設定し、人または車両以外によって引き起こされたアラームを排除します。
8. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
9. 連動アクションを設定します。詳細は [「アラーム連動アクションの設定」](#) を参照してください。
10. 「適用」をクリックします。

映像改ざん

レンズが覆われた際に警報をトリガーし、警報対応アクションを実行します。

手順

1. 設定 → イベント → 通常イベント → 映像改ざん に移動します。
2. カメラを設定します。
3. 有効化をオンにする。
4. 感度を任意に調整する。値が高いほど、映像改ざん検知が容易に作動する。
5. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
6. 連動アクションを設定します。詳細は [「警報連動アクションの設定」](#) を参照してください。
7. 「適用」をクリックします。

映像喪失

カメラの映像喪失を検知し、警報対応アクションを実行します。

手順

1. [設定] → [→] → [イベント] → [→] → [通常イベント] → [→] → [映像喪失] に移動します。
2. カメラを設定します。

3. 有効化をオンにする。
4. 警戒スケジュールを設定する。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照。
5. 連動アクションを設定します。詳細は [「アラーム連動アクションの設定」](#) を参照してください。
6. **[適用]** をクリックします。

アラーム入力

外部センサーアラームの連動動作を設定します。

手順

1. 設定→ イベント→ 通常イベント→ アラーム入力 に移動します。

注記

ローカル警報入力: ローカル警報入力は、ビデオレコーダーの端子台に接続された外部デバイスによってトリガーされます。

2. 対象のアラーム入力の「」をクリックします。
3. アラーム名をカスタマイズします。
4. アラームタイプを**N.O**（常時開）または**N.C**（常時閉）に設定します。
5. 機能を有効にするため、設定を「入力」に設定します。

注記

設定を「非使用」に設定すると、警報入力が無効化されます。設定を「ワンキー解除」に設定すると、警報入力の選択された連動方法が無効化されます。

6. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
7. 連動アクションを設定します。詳細は [「警報連動アクションの設定」](#) を参照してください。
8. **[適用]** をクリックします。

警報出力

警報が作動した際に警報出力をトリガーします。

手順

1. 「設定」→「→」→「イベント」→「→」→「通常イベント」→「→」→「アラーム出力」に移動します。
2. 対象のアラーム出力の「」をクリックします。
3. アラーム名をカスタマイズします。
4. 待機時間を選択します。

5. 機能を有効にするため、設定を「入力」に設定します。
6. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
7. **[適用]** をクリックします。

例外

例外イベントは、ライブビューウィンドウのイベントヒントを取得し、警報出力や連動動作をトリガーするように設定できます。

手順

1. **[設定]** → **[→]** → **[イベント]** → **[→]** → **[通常イベント]** → **[→]** → **[例外]** に移動します。
2. イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターでヒントが表示されます。
 - 1) イベントヒントを有効化。
 - 2) 通知対象イベントを選択。以下のいずれかから選択：
 - **[イベントヒントの設定]** の  をクリックしてイベントを選択します。
 - ローカルメニュー右上の  をクリックし、アラームセンターでイベントを選択。
3. **例外タイプ** を選択し、連動アクションを設定します。
4. 連動アクションを設定します。詳細は [「アラーム連動アクションの設定」](#) を参照してください。
5. **[適用]** をクリックします。

点滅光警報出力

光と音声のアラームカメラが接続されている場合、点滅時間、点滅頻度、および点滅ライトアラームの武装スケジュールを設定できます。

開始前に

光と音のアラームカメラが接続されていること。

手順

1. **設定** → **イベント** → **通常イベント** → **点滅ライト警報出力** に移動します。
2. 任意の行の  をクリックします。
3. **点滅時間** と **点滅頻度** を設定します。
4. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
5. **[保存]** をクリックします。

音声警報出力

光と音声アラームカメラが接続されている場合、音声アラームのパラメータと武装スケジ

ユーザールールを設定できます。

開始前に

光と音声アラームカメラが接続されていること。

手順

1. 設定→ イベント→ 通常イベント→ 点滅ライト アラーム出力 に移動します。
2. 任意の行の「」をクリックします。
3. オーディオタイプを「アラーム音」「プロンプト音」「カスタムオーディオ」から選択します。

注記

アラーム音を選択した場合、アラーム音の種類も選択する必要があります。カスタムオーディオを選択した場合、オーディオファイルをアップロードし、オーディオ名を入力し、カスタムオーディオのドロップダウンボックスでアップロードしたオーディオを選択する必要があります。

4. アラーム時刻と音量を設定します。
5. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
6. [保存]をクリックします。

6.4.2 境界保護

境界保護には、ライン越え検知、侵入検知、区域進入 検知、および区域退出検知が含まれます。

注

境界保護は、特定のデバイスモデルまたはカメラモデルでのみ利用可能です。

ライン越え検知

ライン越え検知は、設定された仮想ラインを越える人物、車両、物体を検知します。検知方向は双方向、左から右、または右から左に設定可能です。

手順

1. 設定→ イベント→ 境界保護→ ラインクロッシング に移動します。
2. カメラを設定します。
3. 有効化をオンにします。
4. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) 警戒エリアを設定します。

- 2) 方向を **A<->B**、**A->B**、または **A<-B** に設定。

A<->B

B側の矢印のみが表示されます。設定された線を両方向から横切る物体を検知し、警報を発動できます。

A→B

設定されたラインをA側からB側へ横断する物体のみが検出可能。

B->A

設定された線をB側からA側へ横切る物体のみが検出されます。

- 3) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウに四角形を描画して、ターゲットの最大描画領域サイズを設定します。
- 4) **「最小サイズ」**をクリックし、プレビューウィンドウで四角形を描画してターゲットの最小描画領域サイズを設定します。
- 5) **「描画領域」**をクリックし、検出領域の四つの頂点を指定してプレビューウィンドウに四角形を描画します。
5. **感度**を調整します。感度を調整することで、動きがアラームをトリガーする容易さを校正できます。値が高いほど、動き検出がより容易にトリガーされます。
6. オプション: **検知対象**を「人」または「車両」に設定し、人または車両以外によってトリガーされたアラームを除外します。



注

この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

7. 警戒スケジュールを設定します。詳細は **「警戒スケジュールの設定」** を参照してください。
8. 連動動作を設定します。詳細は **「警報連動動作の設定」** を参照してください。
9. **[適用]**をクリックします。

侵入検知

侵入検知機能は、事前に定義された仮想領域に侵入し、滞留する人物、車両、または物体を検知します。

手順

1. **「設定」** → **「→」** → **「イベント」** → **「→」** → **「境界保護」** → **「→」** → **「侵入検知」** に移動します。
2. 設定する**カメラ**を選択します。
3. **[有効化]** をオンにします。
4. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) **「警戒エリア」**を選択します。
 - 2) **時間閾値**と**感度**を調整します。

感度

検知アラームをトリガーできる対象物のサイズ。値が高いほど検知アラームが容易に作動します。範囲は[1-100]です。

時間閾値

範囲 [1秒～10秒]。対象物が領域内に滞留する時間の閾値。定義された検知エリア内での対象物の滞留時間が設定時間を超えると、警報が作動します。

- 3) オプション：検知対象を「人」または「車両」に設定し、人体や車両以外による警報を排除します。

注記

この機能は特定モデルでのみ利用可能です。

- 4) [最大サイズ]をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画してターゲットの最大描画領域サイズを設定します。
- 5) 「最小サイズ」をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画してターゲットの最小描画領域サイズを設定します。
- 6) 「描画領域」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。
5. 警備スケジュールを設定します。詳細は「[警備スケジュールの設定](#)」を参照してください。
6. 連動アクションを設定します。詳細は「[警報連動アクションの設定](#)」を参照してください。
7. [適用]をクリックします。

区域進入検知

領域侵入検知機能は、外部から事前に定義された仮想領域に侵入する人物、車両、その他の物体を検知し、警報が作動した際に特定のアクションを実行できます。

手順

1. 設定→ イベント→ スマートイベント→ 領域進入 に移動します。
2. カメラを設定します。
3. VCAモードを選択します。

NVRによる

イベントはNVRによって分析されます。本デバイスは人物と車両を含む動画を分析可能です。選択したタイプ（人物または車両）のターゲットのみが警報をトリガーするため、他の物体による誤警報を低減できます。

カメラによる

イベントはカメラによって分析されます。

4. 有効化をオンにします。

5. オプション：VCA検出でキャプチャした画像を保存するには「**VCA画像保存**」にチェックを入れます。
6. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) **警戒エリア**を設定します。最大4つの警戒エリアを選択可能です。
 - 2) **感度**を調整します。**感度**：範囲[0-100]。値が高いほど、検知アラームがより容易に作動します。
 - 3) オプション：**検知対象**を「人」または「車両」に設定し、人体や車両以外による警報を排除します。
 - 4) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して最大描画エリアサイズを設定します。
 - 5) 「**最小サイズ**」をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して最小描画エリアサイズを設定します。
 - 6) 「**描画領域**」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。
7. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
8. 連動アクションを設定します。詳細は [「アラーム連動アクションの設定」](#) を参照してください。
9. **[適用]**をクリックします。

領域退出検知

領域退出検知機能は、事前に定義された仮想領域から退出する人物、車両、その他の物体を検知し、アラームがトリガーされた際に特定のアクションを実行できます。

手順

1. 設定→ イベント→ スマートイベント→ **領域退出** に移動します。
2. カメラを設定します。
3. **VCAモード**を選択します。

NVRによる

イベントはNVRによって分析されます。本デバイスは人物と車両を含む動画を分析可能です。選択したタイプ（人物または車両）のターゲットのみがアラームをトリガーするため、他の物体による誤作動を低減できます。

カメラによる分析

イベントはカメラによって分析されます。

4. **有効化**をオンにします。
5. オプション：VCA検出でキャプチャした画像を保存するには「**VCA画像保存**」にチェックを入れます。
6. 検知ルールと検知エリアを設定します。
 - 1) **警戒エリア**を設定します。最大4つの警戒エリアを選択可能です。

- 2) **感度**を調整します。**感度**: 範囲[0-100]。値が高いほど、検知アラームがより容易に作動します。
- 3) オプション: **検知対象**を「人」または「車両」に設定し、人体や車両以外による警報を排除します。
- 4) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して最大描画エリアサイズを設定します。
- 5) 「**最小サイズ**」をクリックし、プレビューウィンドウ内で四角形を描画して最小描画エリアサイズを設定します。
- 6) 「**描画領域**」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウ内に四角形を描画します。
7. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
8. 連動アクションを設定します。詳細は [「連動アクションの設定」](#) を参照してください。
9. **[適用]**をクリックします。

6.4.3 顔認識

顔認識は、キャプチャされた顔（画像またはビデオストリーム）を顔画像ライブラリ内の顔と比較し、認識された場合にその身元情報を返す機能です。人間の顔の特徴に基づき、顔認識はまず入力画像またはビデオストリームに人間の顔が存在するかどうかを確認します。人間の顔がある場合、この機能は顔データ（位置、サイズ、顔の特徴など）を現在の顔画像ライブラリ内のデータと比較し、人物を識別します。

開始前に

モーション検知と境界保護が無効になっていることを確認してください。

注記

この機能は特定のモデルでのみご利用いただけます。

顔キャプチャ

顔キャプチャは、シーンに現れる人間の顔を検出します。人間の顔が検出されると、連動アクションがトリガーされます。

手順

1. 設定→ イベント→ 顔認識→ 顔キャプチャ に移動します。
2. カメラを選択します。
3. 有効化をオンにします。
4. 感度を調整します。

感度

値が高いほど、ピントが合っていない画像でも警報が作動しやすくなります。

5. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
6. 連動アクションを設定します。詳細は [「警報連動アクションの設定」](#) を参照してください。
7. **[適用]** をクリックします。

顔画像比較

顔画像比較は、検知された顔画像を顔画像ライブラリ内の顔画像と比較します。比較が成功した場合、デバイスは警報を発します。

開始前に

少なくとも1つの顔画像ライブラリを作成し、ライブラリに顔画像が追加されていることを確認してください。操作の詳細については [「顔画像ライブラリ管理」](#) を参照してください。

手順

1. 設定→ 顔認識→ 顔写真比較 に移動します。
2. カメラを選択します。
3. 「有効化」をオンにします。
4. 「ライブラリリンク一覧」で顔画像ライブラリ（複数可）を選択します。
5. 顔画像ライブラリの類似度を設定します。

類似度

類似度値は0から100の範囲です。デバイスは、検出された顔写真とライブラリ内の顔写真間の類似度を分析します。類似度が閾値に達すると、顔写真の比較が成功し、顔写真が認識されます。

6. 警戒スケジュールを設定します。詳細は [「警戒スケジュールの設定」](#) を参照してください。
7. 「連携成功時」および「連携失敗時」の連携アクションを設定します。詳細は [「アラーム連携アクションの設定」](#) を参照してください。

連携成功時

顔画像の比較が成功した場合、デバイスは連動動作を実行します。

連携失敗

顔写真比較が失敗した場合、デバイスは連携アクションを実行します。

8. **[適用]** をクリックします。

6.4.4 警戒スケジュール設定

手順

1. 「**武装スケジュール**」をクリックします。
2. 週の1日を選択し、時間帯を設定します。1日あたり最大8つの時間帯を設定可能です。



時間帯は重複または重なって設定できません。

3. 「**適用**」をクリックします。

6.4.5 アラーム連動アクションの設定

アラームポップアップウィンドウの設定

アラームがトリガーされると、ローカルモニターはフルスクリーン監視用に設定されたアラーム発生チャンネルの映像を全画面表示します。複数のチャンネルで同時にアラームが発生した場合、自動切り替えの待機時間を設定する必要があります。

手順

1. [設定] → [→] → [システム] → [→] → [ライブビュー] → [→] → [一般] に移動します。
2. イベント出力と待機時間を設定します。

アラームポップアップ出力

イベント動画を表示する出力を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を秒単位で設定します。複数のチャンネルで同時にアラームが発生した場合、フルスクリーン画像は10秒間隔（デフォルトの待機時間）で切り替わります。

3. アラーム検出の**連動アクション**をクリックします。
4. アラーム連動アクションとして「**アラームポップアップウィンドウ**」を選択します。
5. トリガーチャンネル設定で、フルスクリーン監視を適用するチャンネルを選択します。



アラームが停止すると自動切り替えは終了し、ライブビュー画面に戻ります。

ブザーアラームの設定

音声警告により、ビデオレコーダーはアラームが検出された際にビープ音を鳴らすことができます。

手順

1. 設定→ システム→ ライブビュー→ 一般 に移動します。
2. オーディオをオンにし、音量を設定します。
3. アラーム検知の連動アクション設定画面に移動します。
4. ブザー警報連動動作を選択してください。

監視センターへ通知

イベント発生時、ビデオレコーダーは例外または警報信号をリモート警報ホストに送信できます。警報ホストとは、クライアントソフトウェア（例：iVMS-4200、iVMS-5200）がインストールされたコンピュータを指します。

手順

1. 「設定」→「→」→「ネットワーク」→「→」→「一般」→「→」→「詳細設定」へ移動します。
2. アラームホストIPとアラームホストポートを設定します。
3. アラーム検出の連動アクション画面に移動します。
4. 「監視センターへ通知」を選択します。

メール連動の設定

ビデオレコーダーは、アラームが検出された際に、ユーザーまたは複数のユーザーにアラーム情報を含むメールを送信できます。

手順

1. 「設定」→「→」→「ネットワーク」→「→」→「メール」に移動します。
2. 設定を構成します。
3. アラーム検出の連携アクション画面に移動します。
4. アラーム連動アクションとして「メール送信」を選択します。

アラーム出力のトリガー

アラーム出力は、通常イベントおよびスマートイベントによってトリガーされます。

手順

1. アラーム入力またはイベント検出の連動アクション画面に移動します。
2. 「アラーム出力連動」をクリックします。
3. トリガーするアラーム出力を選択します。

4. 「設定」→「→」→「イベント」→「→」→「Normal Event」→「→」→「Alarm Output」に進みます。
5. リストからアラーム出力項目を選択します。詳細は [アラーム出力](#) をご参照ください。

PTZ連動の設定

ビデオレコーダーは、アラームイベントまたはVCA検出イベント発生時にPTZ動作（プリセット呼び出し/パトロール/パターンなど）をトリガーできます。

手順

1. アラーム入力またはVCA検出の**連動アクション**画面に移動します。
2. 「**PTZ連動**」を選択します。
3. PTZ操作を実行するカメラを選択します。
4. アラームイベント発生時に呼び出すプリセット/パトロール/パターン番号を選択します。



リンケージ動作ごとに設定できるPTZタイプは1種類のみです。

6.5 インテリジェント検索

6.5.1 AcuSearch

選択したチャンネルに対してAcuSearch機能を有効にします。

手順

1. 設定→ インテリジェント検索→ **Acu Search** に移動します。
2. **[有効化]**をオンにします。
3. AcuSearch機能を有効化するチャンネルを選択します。
4. **[適用]**をクリックします。



再生インターフェースでAcuSearchを実行できます。詳細は「[通常再生](#)」および「[スライス再生](#)」を参照してください。

6.6 録画管理

6.6.1 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは設定されたスケジュールに従い自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

手順

1. 設定→ 記録→ パラメータ に移動します。
2. カメラのメインストリーム/サブストリーム連続録画パラメータを設定します。
3. 設定→ 記録→ スケジュール に移動します。
4. 録画タイプを「**連続**」に選択します。

イベント録画の設定

ライン横断検知、侵入検知などによってトリガーされる録画を設定できます。

手順

1. 設定→ イベント に移動します。
2. イベント検知を設定し、イベント発生時に録画をトリガーするカメラを選択します。
3. 設定→ 記録→ パラメータ に移動します。
4. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。
5. 設定→ 記録→ スケジュール に移動します。
6. 録画タイプを「**イベント**」に選択します。

スケジュール編集

手順

1. 設定→ 記録→ スケジュール に移動します。

連続

連続録画。

イベント

すべてのイベントトリガー警報によってトリガーされる録画。

2. カメラ番号でカメラを選択
3. 有効化をオンにする。
4. 録画スケジュールを設定します。
 - 1) 「**編集**」をクリック。
 - 2) 設定する曜日を「**平日**」から選択。

- 3) 終日録画スケジュールを設定するには、**終日**をチェックし、**スケジュールタイプ**を選択します。
- 4) その他のスケジュールを設定するには、「**終日**」のチェックを外し、**開始/終了時間**と**スケジュールタイプ**を設定します。

 注記

1日に最大8つの時間帯を設定できます。また、時間帯同士が重複することはできません。

- 5) **[OK]**をクリックして設定を保存し、上位メニューに戻ります。

 注

スケジュールタイプを「**連続**」または「**イベント**」から選択し、目的の時間帯にカーソルをドラッグして色付きのバーを描画することもできます。

5. **詳細設定**をクリックして詳細パラメータを設定します。

音声の録音

音声は動画ファイルに録音されます。

事前録画

スケジュールされた時間またはイベントの前に録画を開始する時間を設定します。

例：アラームが**10:00**に録画をトリガーする場合、事前録画時間を**5秒**に設定すると、カメラは**9:59:55**に録画を開始します。

事後録画

イベントまたはスケジュールされた時間後に録画する設定時間。例：アラームによる録画が**11:00**に終了する場合、ポスト録画時間を**5秒**に設定すると、**11:00:05**まで録画されます。

ストリームタイプ

メインストリームとサブストリームは録画時に選択可能です。サブストリームを選択すると、同じストレージ容量でより長い時間の録画が可能です。

動画/画像の有効期限

有効期限とは、録画ファイルがHDDに保存される期間です。期限が切れるとファイルは削除されます。有効期限を**0**に設定すると、ファイルは削除されません。ファイルの実際の保存期間はHDDの容量によって決まります。

6. **[OK]**をクリックして詳細設定を保存します。

7. **[適用]**をクリックします。

6.6.2 録画パラメータの設定

手順

1. カメラのメインストリームおよびサブストリームのパラメータを設定するには、設定→記録→パラメータに移動します。
2. 録画パラメータを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与える主要ストリームを指し、映像品質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較して、メインストリームはより高い解像度とフレームレートで高品質な映像を提供します。

メインストリーム（連続）は通常録画のメインストリームを指します。メインストリーム（イベント）はイベント録画のメインストリームを指します。

サブストリーム

サブストリームはメインストリームと並行して動作する第二のコーデックです。直接録画の品質を損なうことなく、インターネット送信帯域幅を削減できます。サブストリームは主にスマートフォンアプリがライブ映像を視聴するために使用されます。インターネット速度が制限されているユーザーはこの設定から最も恩恵を受けられます。

ストリームタイプ

録画に映像と音声を含めるか、映像のみを含めるかを選択できます。

解像度

画像解像度は、デジタル画像が保持できる詳細度の尺度です。解像度が高いほど、詳細度も高くなります。解像度は、ピクセル列数（幅）×ピクセル行数（高さ）で指定できます。例：1024×768。

ビットレートタイプ

可変ビットレート：状況に応じてビットレートを調整するため、ネットワーク帯域幅の利用効率が向上し、ストレージ容量を節約できます。6段階の画質設定が可能です。動画エンコード形式にH.265を選択した場合、システムはH.265 Proエンコーディングを採用します。固定ビットレート：最大ビットレートでエンコードします。画質調整は不可です。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間にキャプチャされるフレーム数を指します。動画ストリームに動きがある場合、フレームレートが高いほど画質が維持されるため有利です。

最大ビットレートモード

一般：固定値パラメータから選択可能。カスタム：最大ビットレートの値をカスタマイズ。

ビデオエンコーディング

ビデオエンコーディング形式を選択します。オプションは接続されたカメラによって決定されます。

H.265+を有効化

H.265+モードは、低ビットレートで高画質を保証します。帯域幅とHDDストレージ容量の必要性を効果的に削減できます。

3. **[適用]**をクリックします。

6.6.3 ストレージデバイス

HDDの初期化

HDDを初めて使用する場合は、インストール後に初期化してください。

開始前に

ビデオレコーダーに少なくとも1台のHDDを取り付けてください。

手順

1. **設定**→ **レコード**→ **ストレージ** に移動します。
2. HDDを選択します。
3. **「初期化」**をクリックします。

データベース修復

データベースにエラーが発生したHDDを修復します。専門の技術サポートの支援のもとで操作してください。

ネットワークディスクの追加

割り当て済みのNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワークHDDとして使用できます。

手順

1. **設定**→ **記録**→ **ストレージ** に移動します。
2. **「追加」**をクリックします。
3. **NetHDD**を設定します。
4. **タイプ**を**NAS**または**IP SAN**に設定します。
5. NetHDDのIPアドレスを入力します。
6. **「Q」**をクリックして利用可能なディスクを検索します。
7. リストからNASディスクを選択するか、**NetHDDディレクトリ**に手動でディレクトリを入力します。

8. **[OK]**をクリックします。



各ネットワークディスクの最大ストレージ容量は8TBまでです。

結果

追加されたネットワークディスクはストレージデバイス一覧に表示されます。

6.6.4 ストレージモードの設定

HDD クォータの設定

各カメラには、ビデオ保存用に割り当てられたクォータを設定できます。

手順



この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

1. **[設定]** → **[→]** → **[記録]** → **[→]** → **[ストレージモード]** に移動します。
 2. モードを「クォータ」に設定します。
 3. カメラでクォータを設定するカメラを選択します。
 4. 「記録容量」にストレージ容量を入力します。
-



クォータ容量が0に設定されている場合、すべてのカメラは動画と画像の保存にHDDの総容量を使用します。

5. **[適用]**をクリックします。
6. 新しい設定を有効にするため、ビデオレコーダーを再起動します。

HDDグループの構成

複数のHDDをグループ単位で管理できます。HDD設定により、指定チャンネルの映像を特定のHDDグループ（ ）に録画できます。

手順



この機能は特定のモデルでのみ利用可能です。

1. 設定→ 記録→ ストレージモード に移動します。
2. モードをグループに設定します。
3. グループ番号を選択します。
4. HDDグループに録画するIPカメラを選択します。
5. [適用]をクリックします。
6. 新しいストレージモード設定を有効にするため、ビデオレコーダーを再起動します。
7. 再起動後、設定（Configuration）→ 記録（→ ）→ ストレージ（→ ）の順に移動します。
8. 対象HDDの「」をクリックし、グループを設定します。
9. 現在のHDD用のグループ番号を選択します。
10. [適用]をクリックします。

注記

HDDのグループ番号を変更した場合は、カメラをHDDごとに再グループ化してください。

6.6.5 詳細設定

手順

1. 「設定」→「→」→「記録」→「→」→「詳細設定」へ移動します。
2. 必要に応じてパラメータを設定します。

上書き

- 無効化: HDDが満杯になると、ビデオレコーダーは書き込みを停止します。
- 有効化: ハードドライブが満杯の場合、最も古いファイルを削除して新しいファイルの書き込みを継続します。

HDDスリープ

長時間動作していないHDDはスリープ状態に移行します。

カメラVCAデータの保存

カメラVCAデータを保存し、後で検索できるようにします。

注記

カメラVCAデータの保存を無効にすると、既存のデュアルVCAおよび動体検知情報が削除され、デュアルVCAおよび動体検知情報の分析と保存が停止します。

アラーム保存

HDDの空き容量が不足している場合、容量を節約するために無効にできますが、デバイスはアラーム情報の保存を停止します。

画像保存

HDDの空き容量が不足している場合、これを無効にすることで容量を節約できますが、デバイスは画像の保存を停止します。

6.7 顔写真ライブラリ管理

顔写真ライブラリは主に顔写真の保存と顔写真の比較に使用されます。

注意

このセクションは特定のモデルでのみ利用可能です。

6.7.1 顔写真ライブラリの追加

顔写真ライブラリは顔写真を保存するために使用され、顔写真比較に不可欠です。

手順

1. 設定→ 顔写真ライブラリ に移動します。
 2. 認証のため管理者パスワードを入力します。
 3. 「追加」をクリックします。
 4. 顔写真ライブラリ名を入力します。
 5. 「追加」をクリックします。
-

注記

また、[→ Human] を検索し、検索結果を顔写真ライブラリに追加することもできます。

次の操作

顔写真ライブラリを追加後、名前を編集したり、削除したり、顔写真をアップロードしたりできます。

6.7.2 ライブラリへの顔写真のアップロード

- 1 枚の顔写真をアップロードすることも、複数の顔写真をライブラリにインポートすることもできます。

開始前に

顔写真ライブラリを作成し、顔写真比較機能を有効にしていることを確認してください。

手順

1. [設定] → [→] → [Face Picture Library] に移動します。
-

2. 顔写真をアップロードする顔写真ライブラリを探し、をクリックします。
3. **[Add]** をクリックします。
4. 画像をインポートします。



ライブラリに1枚の顔写真を追加します。



ライブラリに複数の顔写真を追加します。

注意

- JPGおよびJPEG形式のみ対応しています。
 - 各画像のサイズは1MB未満である必要があります。
 - 画像の解像度は 80×80 から 1920×1080 の間でなければなりません。
 - USBフラッシュドライブ内の画像のみインポートできます。
-

第7章 メンテナンス

7.1 デフォルト設定への復元

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. 復元タイプを選択します。

簡易復元

ネットワーク（IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MTU、NIC動作モード、デフォルトルート、サーバーポートなど）およびユーザーアカウントパラメータを除くすべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に復元します。

工場出荷時設定

すべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に復元します。

非アクティブ状態への復元

デバイスを非アクティブ状態に復元し、ユーザーアカウントの復元を除き、すべての設定を変更せずに残します。

3. **[はい]** をクリックします。デバイスは自動的に再起動します。

7.2 検索ログ

ビデオレコーダーの操作、アラーム、例外、および情報はログに保存され、いつでも表示およびエクスポートできます。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. **[その他]** をクリックします。
3. **[ログ情報]** をクリックします。
4. 検索条件を設定します。
5. **[検索]** をクリックします。

7.3 システムサービス

手順

1. 右上の「」をクリックします。

2. **[その他]** をクリックします。
3. **「システムサービス」** をクリックします。
4. 必要に応じてパラメータを設定します。

RTSP

RTSP認証を設定することで、ライブビューのストリームデータを特に保護できます。

RTSP認証

2種類の認証方式から選択可能です。**ダイジェスト認証**を選択した場合、ダイジェスト認証を持つリクエストのみが、IPアドレス経由でRTSPプロトコルによるビデオストリームにアクセスできます。セキュリティ上の理由から、認証方式として**ダイジェスト**を選択することを推奨します。

ISAPI

ISAPI（Internet Server Application Programming Interface）はHTTPベースのオープンプロトコルであり、システムデバイス間（例：ネットワークカメラ、NVRなど）の通信を実現します。ビデオレコーダーをサーバーとして使用することで、システムがビデオレコーダーを検出して接続できます。

HTTP

管理者ユーザーアカウントは、GUIまたはWebブラウザからHTTPサービスを無効化できます。HTTPが無効化されると、ISAPIやONVIFを含む関連サービスもすべて終了します。

HTTP認証

HTTPサービスを有効にする必要がある場合、アクセスセキュリティを強化するためにHTTP認証を設定できます。2種類の認証タイプから選択可能です。セキュリティ上の理由から、認証タイプとして**ダイジェスト認証**を選択することを推奨します。

カメラ追加検出

この機能はネットワークカメラの状態を検出します。ネットワークカメラが別のビデオレコーダーによって追加されている場合、**オンラインデバイス一覧**においてカメラの状態は「」と表示されます。

5. **[適用]** をクリックします。

7.4 ブザースイッチ

アラーム連動または例外連動でブザーを有効 / 無効にできます。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. **[その他]** をクリックします。
3. **「Buzzer Switch」** に移動します。
4. **[有効化]** をオンまたはオフにします。

7.5 デバイスマaintenance

7.5.1 スケジュール再起動

スケジュールに従ってデバイスが自動的に再起動します。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. **[More]** をクリックします。
3. **[Device Maintenance]** → **[→]** → **[Enable Schedule Reboot]** に移動します。
4. **[有効にする]**をオンにします。
5. 再起動スケジュールを設定します。
6. **[適用]**をクリックします。

7.5.2 デバイス状態

選択したチャンネルをミュートできます。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. **[その他]**をクリックします。
3. 「**デバイスマaintenance**」 → 「**→ デバイスステータス**」に移動します。
4. 「**ミュートと通知を停止**」欄で、該当するチャンネルにチェックを入れます。

結果

選択したチャンネルがミュートされます。

7.5.3 時刻同期診断

時刻同期情報を表示し、時刻同期例外検出を有効にします。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. **[その他]** をクリックします。
3. **デバイスマaintenance** → **タイムシンク診断** に移動します。
現在の時刻同期情報を表示します。
4. 「**時刻同期設定**」をクリックします。
5. 「**時刻同期例外検出を有効にする**」をオンにします。



注

複数の時刻同期ソースの検出に対応しています。複数の時刻同期ソースが検出された場合、不要なソースは速やかに無効化してください。さもないとデバイスの時刻が変動し、

録画に影響を及ぼす可能性があります。RTCバッテリーの検出に対応しています。RTCバッテリーが消耗すると、デバイスの時刻異常が発生し、映像の消失や録画時刻の不正確さを引き起こす可能性があります。メインボードのボタン電池を交換し、再度時刻を同期してください。

6. [OK]をクリックします。

7.6 アップグレード

警告

アップグレード中はシャットダウンまたは電源を切らないでください。

7.6.1 ローカルアップグレード

開始前に

アップグレード用ファームウェアをバックアップデバイスに保存し、デバイスに接続してください。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. 「」をクリックします。
3. 「ローカルアップグレード」をクリックします。
4. [デバイス名] でバックアップデバイスを選択します。
5. アップグレード用ファームウェアを選択します。
6. [アップグレード]をクリックします。デバイスは自動的に再起動します。

7.6.2 オンラインアップグレード

最新のオンラインファームウェアでデバイスをアップグレードします。

開始前に

HiLookVisionが有効化され、適切に設定されていることを確認してください。詳細は [HiLookVision](#) を参照してください。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. 「」をクリックします。
3. 「オンラインアップグレード」をクリックします。
4. 最新ファームウェアをダウンロードします。

自動ダウンロード 最新のファームウェアを自動的に確認・ダウンロードします。

テストアップグレード テストアップグレードをクリックすると、手動で最新のファームウェアを確認・ダウンロードできます。

5. 新しいファームウェアバージョンが利用可能な場合は、デバイスをアップグレードしてください。デバイスは自動的に再起動します。

第8章 アラーム

イベント発生時、アラームセンターで詳細を確認できます。

8.1 イベントヒントの設定

アラームセンターで通知するイベントを選択します。

手順

1. 右上の「」をクリックします。
2. 希望のイベントタイプを選択します。
3. 「」をクリックし、ヒントを表示するイベントを選択します。
4. **[OK]**をクリックします。
選択したイベントが発生すると、アラーム情報が（ローカルメニューの右上隅）に表示されます。

8.2 アラームセンターでのアラーム表示

手順

1. ローカルメニュー右上の「」をクリックします。
2. 表示したいイベントタイプを選択します。

第9章 Web操作

9.1 概要

ウェブブラウザからビデオレコーダーにアクセスできます。

以下のウェブブラウザのいずれかをご利用いただけます：Internet Explorer 11.0、Apple Safari、Mozilla Firefox、Google Chrome。対応解像度は1024××768以上です。

一部のモデルでは、ウェブコンポーネントプラグインをダウンロードしてインストールする必要があります。そうしないと、一部の機能が利用できなくなります。ダウンロードアドレスは

<http://hikdownload.vs7.com/web/webplugin/windows/WebComponents/standard/WebComponents.exe> です。

9.2 ログイン

インターネット接続環境下での本製品使用にはネットワークセキュリティリスクが伴うことをご承知おきください。ネットワーク攻撃や情報漏洩を防止するため、ご自身の保護対策を強化してください。本製品が正常に動作しない場合は、販売店または最寄りのサービスセンターまでご連絡ください。

手順

1. ウェブブラウザを開き、ビデオレコーダーのIPアドレスを入力して**Enter**キーを押します。

注記

HTTPポートを変更している場合は、アドレスバーに **/http://IP アドレス:HTTP ポート/** と入力してください。例： **http: 192.168.1.64:81**。

2. ログイン画面でユーザー名とパスワードを入力します。
3. 「ログイン」をクリックします。
4. インストールプロンプトに従ってプラグインをインストールします。

注意

プラグインのインストールを完了するには、ウェブブラウザを閉じる必要がある場合があります。

9.3 ライブビュー

ログイン後、ライブビュー画面が表示されます。

9.4 再生

再生をクリックすると再生画面に入ります。

9.5 設定

設定をクリックすると設定画面に入ります。

9.6 ログ

手順

1. メンテナンス→ システム→ メンテナンス→ ログ に移動します。
2. 検索条件を設定します。
3. **[検索]**をクリックします。

第10章 付録

10.1 用語集

デュアルストリーム

デュアルストリームは、高解像度ビデオをローカルに記録しながら、低解像度のストリームをネットワーク経由で送信する技術です。2つのストリームはDVRによって生成され、メインストリームの最大解像度は1080P、サブストリームの最大解像度はCIFです。

DVR

デジタルビデオレコーダーの略称。アナログカメラからの映像信号を受け取り、圧縮して内蔵ハードドライブに保存する装置。

HDD

ハードディスクドライブの略称。磁気表面を持つプラッター上にデジタル符号化されたデータを保存する記憶媒体。

DHCP

ダイナミックホスト構成プロトコル（DHCP）は、インターネットプロトコルネットワークで動作するための構成情報を取得するためにデバイス（DHCPクライアント）が使用するネットワークアプリケーションプロトコルである。

HTTP

ハイパーテキスト転送プロトコルの略称。ネットワークを介してサーバーとブラウザ間でハイパーテキストのリクエストや情報を転送するためのプロトコル。

PPPoE

PPPoE（Point-to-Point Protocol over Ethernet）は、イーサネットフレーム内にポイントツーポイントプロトコル（PPP）フレームをカプセル化するネットワークプロトコルである。主に、個々のユーザーがイーサネット経由でADSLトランシーバー（モデム）に接続するADSLサービスや、プレーンなメトロイーサネットネットワークで使用される。

DDNS

ダイナミックDNS（Dynamic DNS）とは、インターネットプロトコルスイートを使用するルーターやコンピュータシステムなどのネットワーク機器が、DNSに保存されている設定済みホスト名、アドレス、その他の情報をリアルタイム（アドホック）で変更するようドメインネームサーバーに通知する機能を提供する手法、プロトコル、またはネットワークサービスである。

ハイブリッドDVR

ハイブリッドDVRは、DVRとNVRを組み合わせたものです。

NTP

ネットワーク時刻プロトコル（**Network Time Protocol**）の略称。ネットワーク上のコンピュータの時計を同期させるために設計されたプロトコル。

NTSC

全米テレビジョンシステム委員会の略称。**NTSC**は米国や日本などで使用されるアナログテレビ規格である。**NTSC**信号の各フレームは60Hzで525走査線を含む。

NVR

ネットワークビデオレコーダーの略称。**NVR**は、IPカメラ、IPドームカメラ、その他のDVRの集中管理と保存に使用されるPCベースまたは組み込みシステムである。

PAL

位相交替ライン（**Phase Alternating Line**）の略称。**PAL**は、世界の多くの地域で放送テレビシステムに使用されている別の映像規格である。**PAL**信号は50Hzで625走査線を含む。

PTZ

パン・チルト・ズームの略称。**PTZ**カメラはモーター駆動システムであり、カメラの左右パン、上下チルト、ズームイン/ズームアウトを可能にする。

USB

ユニバーサル・シリアル・バスの略称。**USB**は、デバイスをホストコンピュータに接続するためのプラグアンドプレイ対応シリアルバス規格である。

